

平成 20 年度

掛之上遺跡68・72・73・74・76

— 写真図版編 —

2009

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成 20 年度

掛之上遺跡68・72・73・74・76

－ 写真図版編 －

2009

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成20年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、掛^{かけ}之上^{のうえ}遺跡の第68・72・73・74・76次発掘調査報告書写真図版編（まち支援交付金区画道路予算分報告書）である。なお、すべての調査区については一部民地造成部分を含むが、調査区が一体化しているため本書に含めて報告した。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施行係が行った。特に、公共施行係の杉山典克、小池恵子、杉山資治、藤原資郎、大澤勇人、奥野山誠の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

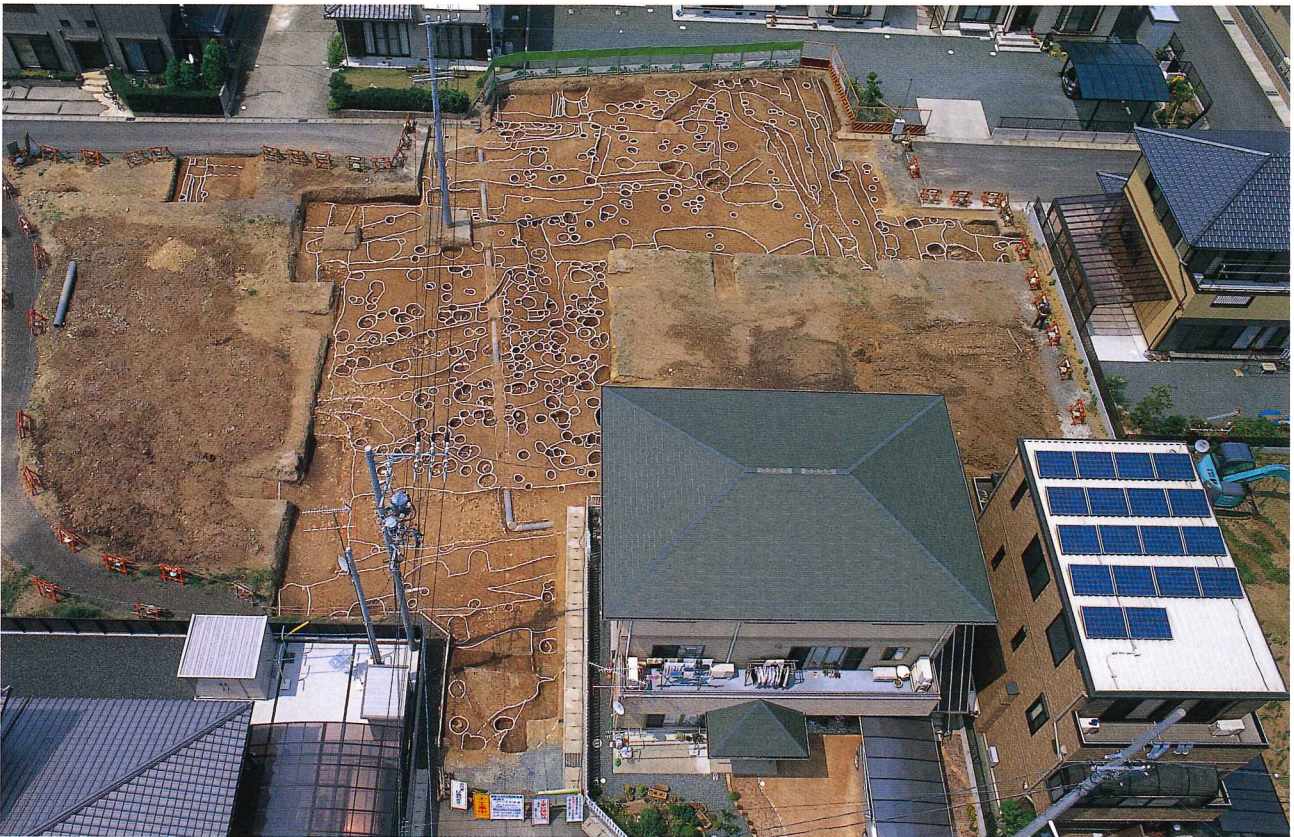
写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第68次発掘調査区空中写真全景 (2) 第68次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版2 (1) 第72次発掘調査区空中写真全景 (2) 第72次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版3 (1) 第73次発掘調査区空中写真全景 (2) 第73次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版4 (1) 第74次発掘調査区空中写真全景 (2) 第74次発掘調査区空中写真全景
図版1 (1) 第68次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第68次発掘調査区空中写真全景
図版2 (1) 第68次発掘調査区空中写真全景 (2) 第68次発掘調査区空中写真全景
図版3 (1) 第68次発掘調査区南半部分空中写真全景 (2) 第68次発掘調査区北半部分空中写真全景
図版4 (1) 第68次発掘調査区全景 (2) S B 2
図版5 (1) S B 2 貯蔵穴土器出土状況 (2) S B 8
図版6 (1) S B 8 (2) S B 8 かまど
図版7 (1) S B 8 かまど付近土器出土状況 (2) S B 8 かまど付近土器出土状況
図版8 (1) S B 8 焼土 (2) S B 8 貯蔵穴
図版9 (1) S B 9 (2) S B 9 炉跡
図版10 (1) S H 6 (2) S H 7・8
図版11 (1) S Z 6 (2) S Z 6 土器出土状況
図版12 (1) S D 6・8・9 (2) S D 41
図版13 (1) S D 41 土層 (2) S D 25、S K 43・74
図版14 (1) S K 74 石積 (2) S K 62
図版15 (1) S K 65 (2) S K 70・71
図版16 (1) S K 72 (2) S K 73
図版17 (1) 重機による表土掘削作業 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
図版18 (1) 第72次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第72次発掘調査区空中写真全景
図版19 (1) 第72次発掘調査区空中写真全景 (2) 第72次発掘調査区全景
図版20 (1) 第72次発掘調査区全景 (2) S H 23～27 空中写真
図版21 (1) S H 23～27 空中写真 (2) S H 23・24
図版22 (1) S H 25・26 (2) S H 27
図版23 (1) S H 28～31 空中写真 (2) S H 28～31 空中写真
図版24 (1) S H 28・30・31 (2) S H 28～31、S D 34・35
図版25 (1) S H 10・32・33 空中写真 (2) S H 10・32・33 空中写真
図版26 (1) S H 10・32・33 (2) S H 10・32・33
図版27 (1) 調査区中央部分西壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
図版28 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
図版29 (1) 第73次発掘調査区空中写真全景 (2) 第73次発掘調査区全景
図版30 (1) S B 19・20 (2) S B 20 貯蔵穴土器出土状況
図版31 (1) S B 20 貯蔵穴土層 (2) S H 34
図版32 (1) S H 35 (2) S H 36
図版33 (1) S H 37 (2) S H 37 柱穴

- 図版34 (1) S Z 3～5 空中写真 (2) S Z 3～5 空中写真
- 図版35 (1) S Z 3 西溝土層 (2) S Z 3 東溝土層
- 図版36 (1) S Z 3 東溝土器出土状況 (2) S Z 4
- 図版37 (1) S Z 4 西溝 (2) S Z 4 西溝土層
- 図版38 (1) S Z 4・5 空中写真 (2) S Z 5 西溝土層
- 図版39 (1) S Z 5 西溝土器出土状況 (2) S Z 5 西溝No 1 土器出土状況
- 図版40 (1) S Z 5 西溝No 2・3 土器出土状況 (2) S Z 5 西溝No 4～6 土器出土状況
- 図版41 (1) S Z 5 西溝No 8・7 土器出土状況 (2) 土器棺 1
- 図版42 (1) S D37 (2) S D38
- 図版43 (1) S D39・41 (2) S D39
- 図版44 (1) S D43 (2) S D43土層
- 図版45 (1) S D46 (2) S K35・37・38
- 図版46 (1) S K43 (2) S K46
- 図版47 (1) 調査区北壁西端土層 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版48 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版49 (1) 第74次発掘調査区空中写真全景 (2) 第74次発掘調査区空中写真全景
- 図版50 (1) 第74次発掘調査区南半部分空中写真全景 (2) 第74次発掘調査区北半部分空中写真全景
- 図版51 (1) 第74次発掘調査区南半部分全景 (2) S B 7
- 図版52 (1) S B 7 貯蔵穴 (2) S B21
- 図版53 (1) S H33 (2) S H41
- 図版54 (1) S H41 S P123 (2) S Z 1
- 図版55 (1) S Z 1 西溝土層 (2) S D34・35
- 図版56 (1) S D34土器出土状態 (2) S D48・49
- 図版57 (1) S D48土層 (2) S D48土器出土状況
- 図版58 (1) S D49・50・52・53 (2) S D54
- 図版59 (1) S D54B 溝土層 (2) S D60
- 図版60 (1) S D62 (2) S K47
- 図版61 (1) S D64・S K49 (2) S K49土器出土状況
- 図版62 (1) S D61 (2) S P12
- 図版63 (1) 調査区南半部分北壁東端土層 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版64 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版65 (1) 第76次発掘調査区空中写真全景 (2) 第76次発掘調査区空中写真全景
- 図版66 (1) 第76次発掘調査区全景 (2) 第76次発掘調査区全景
- 図版67 (1) S B17 (2) S B17 炉跡
- 図版68 (1) S D18・19 (2) 調査区北半部分西壁中央土層
- 図版69 (1) 重機による表土掘削作業 (2) 作業員による遺構調査作業風景

※表紙写真 第74次発掘調査区空中写真遠景 (手前が掛之上遺跡が立地する段丘涯で、中央の住宅地が遺跡の立地する段丘面、磐田原台地が遠望できる。東より撮影)

写真図版



(1) 第68次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期の土坑、古墳時代後期の竪穴住居、奈良時代と江戸時代の区画溝が検出された。南より)



(2) 第68次発掘調査区空中写真全景
(中央に柱穴が集中する。右側には古墳時代後期の竪穴住居が点在する。上が西で、真上より)



(1) 第72次発掘調査区空中写真全景
(掛之上遺跡の東側の段丘涯近くの調査区である。柱穴群が3箇所にとまり、
古墳時代後期か戦国時代に該当する掘立柱建物の柱穴群であったと思われる。東より)



(2) 第72次発掘調査区空中写真全景
(区画溝のほとんどは近世～近代の畑地を区画した排水用の溝である。上が西で、真上より)



(1) 第73次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代中～後期の方形周溝墓と、古墳時代後期の竪穴住居が確認されている。西より)



(2) 第73次発掘調査区空中写真全景
(西側の溝が方形周溝墓、東側には古墳時代後期の竪穴住居と掘立柱建物、戦国時代の掘立柱建物が見られる。上が北で、真上より)



(1) 第74次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期、中世、江戸時代末期の溝が集中している。南より)



(2) 第74次発掘調査区空中写真全景
(南より延びてきた溝の一部が東に折れるように延びている。北端には古墳時代後期か戦国時代の掘立柱建物が見られる。上が西で、真上より)



(1) 第68次発掘調査区空中写真遠景
(手前の住宅地が掛之上遺跡南西部分で、J R東海道線より南が旧高尾池の水田地である。かすんでいるが遠州灘を望むことができる。北東より)



(2) 第68次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居と柱穴群が見られる。西より)



(1) 第68次発掘調査区空中写真全景
 (区画溝の多くは近世～近代の畑地の排水用のものと思われるが、南端にある
 幅の広い溝は郡衛正倉院の北辺の区画溝 (S D41) である。北より)



(2) 第68次発掘調査区空中写真全景
 (手前の遺構のまばらな所に、古墳時代後期の竪穴住居2棟が見られる。北東より)



(1) 第68次発掘調査区南半部分空中写真全景
(区画溝は近世～近代の畑地の排水溝だけでなく、奈良時代の郡衙正倉院の北辺の区画溝も南北方向に見られる、柱穴群はまとまる傾向があり、掘立柱建物の組み合わせになるものも含む。上が西で、真上より)

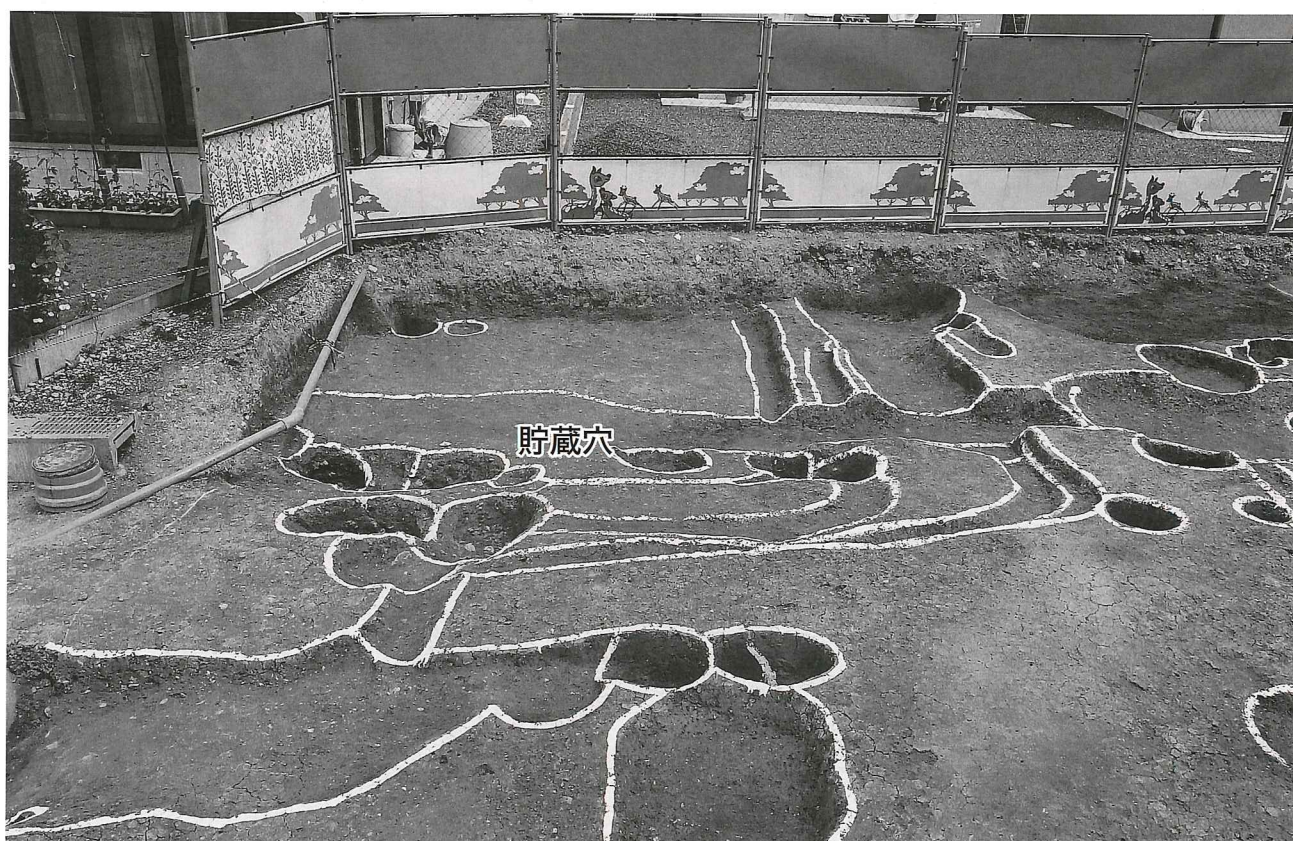


(2) 第68次発掘調査区北半部分空中写真全景
(古墳時代後期の竪穴住居、近世～近代の畑地の区画溝や土坑が検出された。南より)



(1) 第68次発掘調査区全景

(手前の溝は近世～近代の畑地の排水用の区画溝である。古墳時代後期の竪穴住居も見られる。東より)

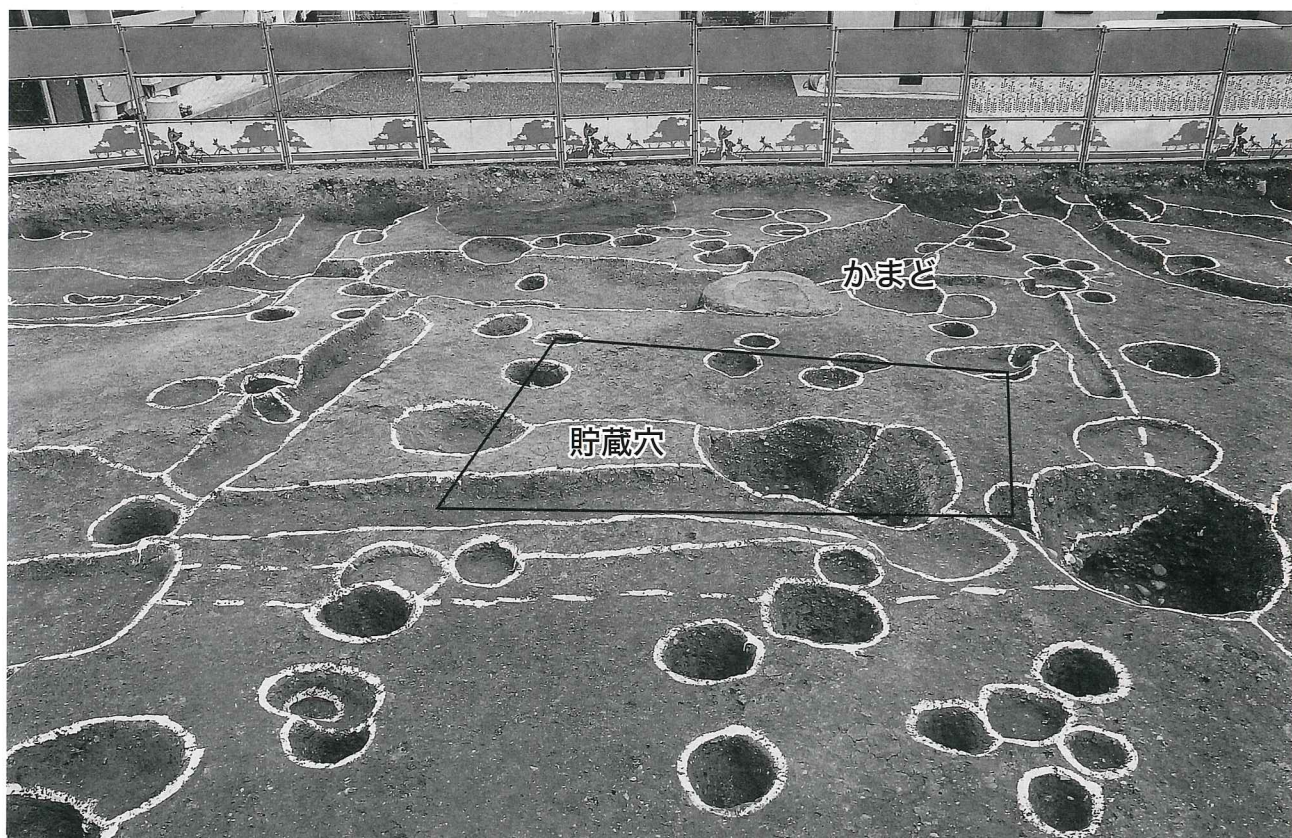


(2) SB2

(方形の竪穴住居であり、北側の調査区でかまども発見されている。壁溝から最低3回の建替えがあったと見られる。南より)



(1) S B 2 貯蔵穴土器出土状況
(長胴甕が底より浮いていたため、貯蔵穴の廃棄後に埋められたと見られる。
竪穴住居の南側に設けたと推測される入口付近に貯蔵穴が掘られる傾向がある。東より)

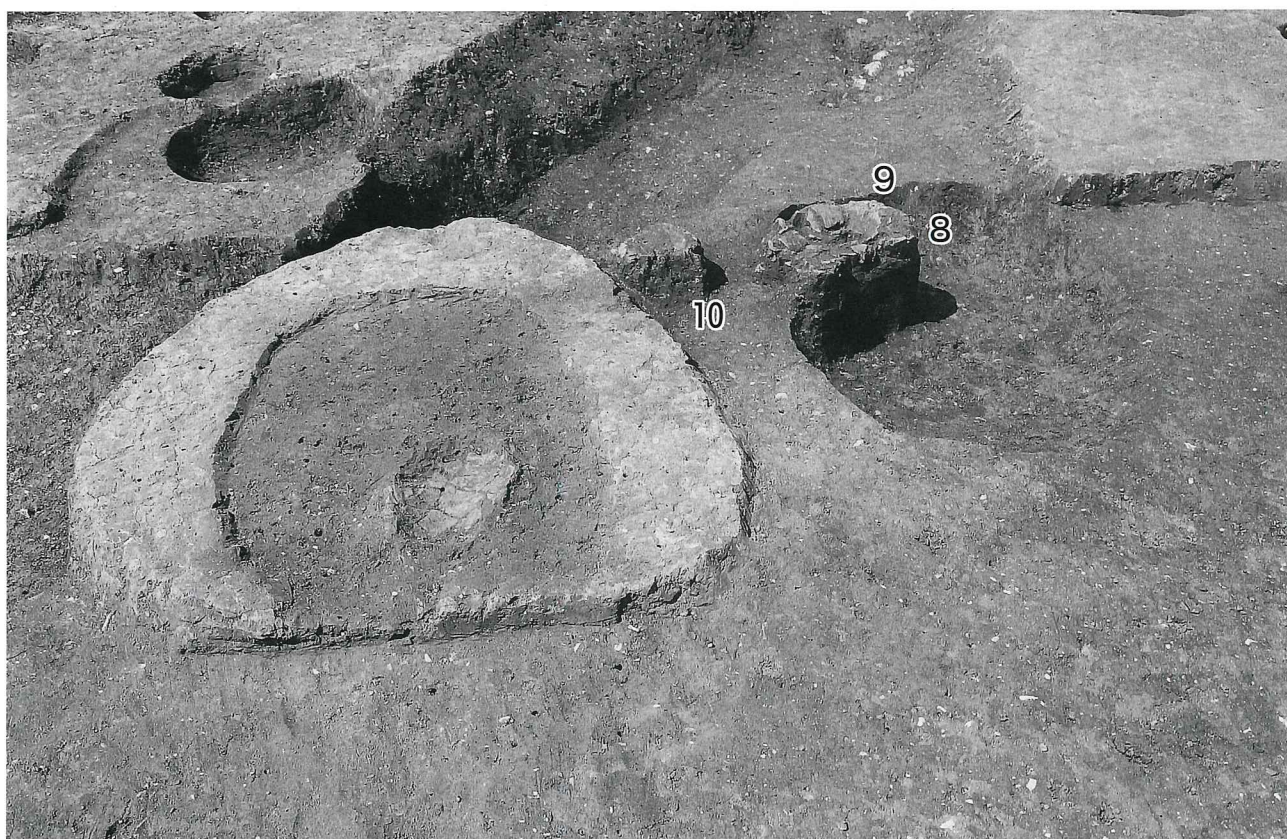


(2) S B 8
(古墳時代後期の竪穴住居である。方形で北壁にかまどが設けられている。南より)



(1) SB 8

(近世～近代の区画溝により切られているが、ほぼ全体の形状が分かる。西より)

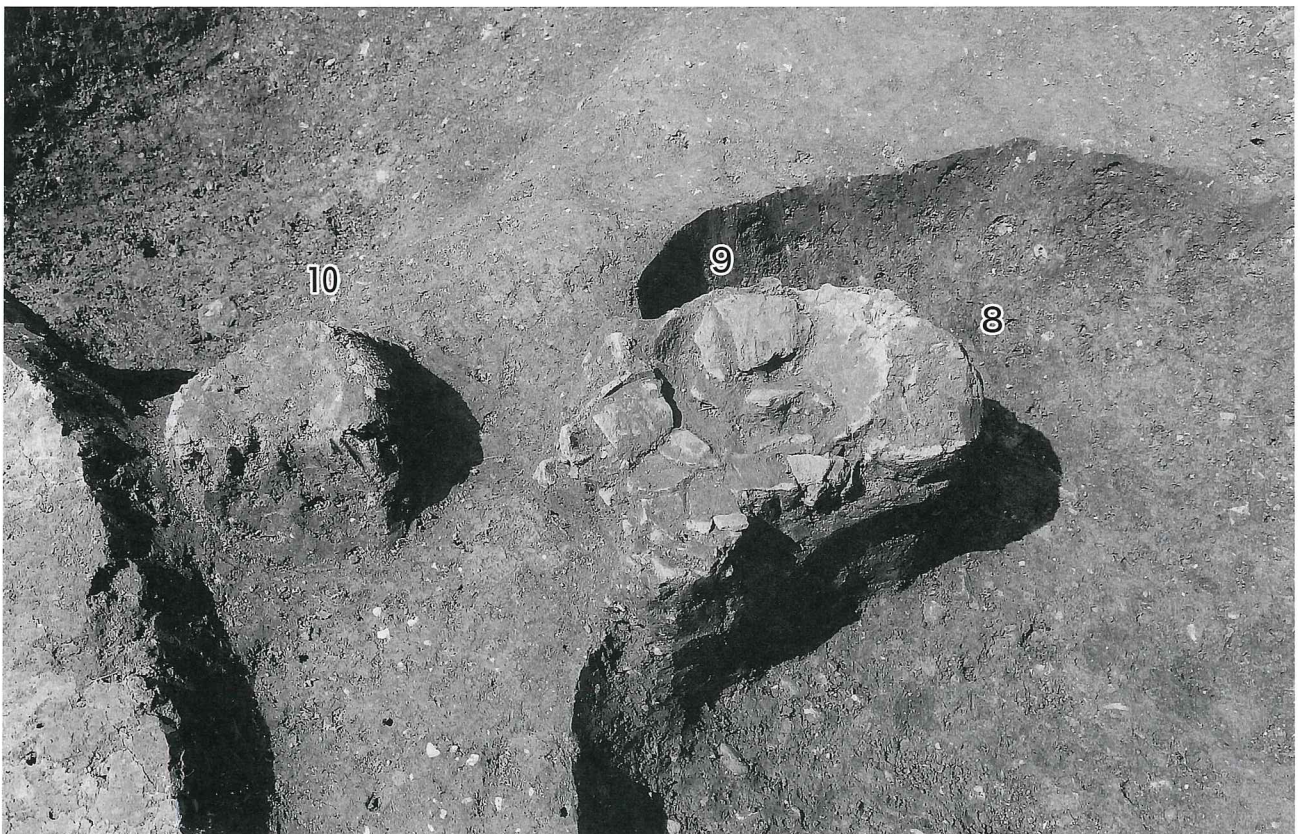


(2) SB 8 かまど

(袖の白色粘土の範囲が良く分かるので、壊されていない事例である。
付近に壊れた土器が廃棄されている。南より)



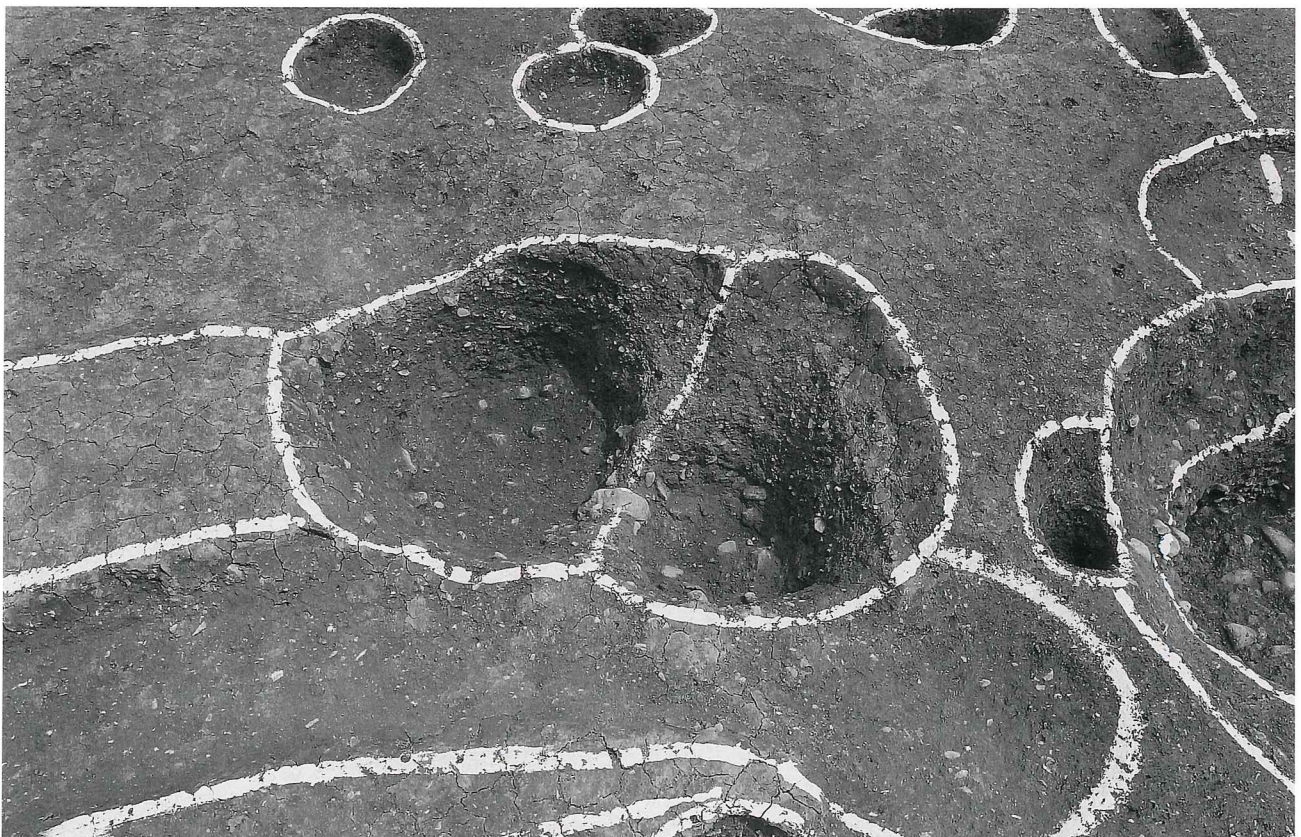
(1) S B 8 かまど付近土器出土状況
(かまどより西側に廃棄された土器で、坏類が主体である。南より)



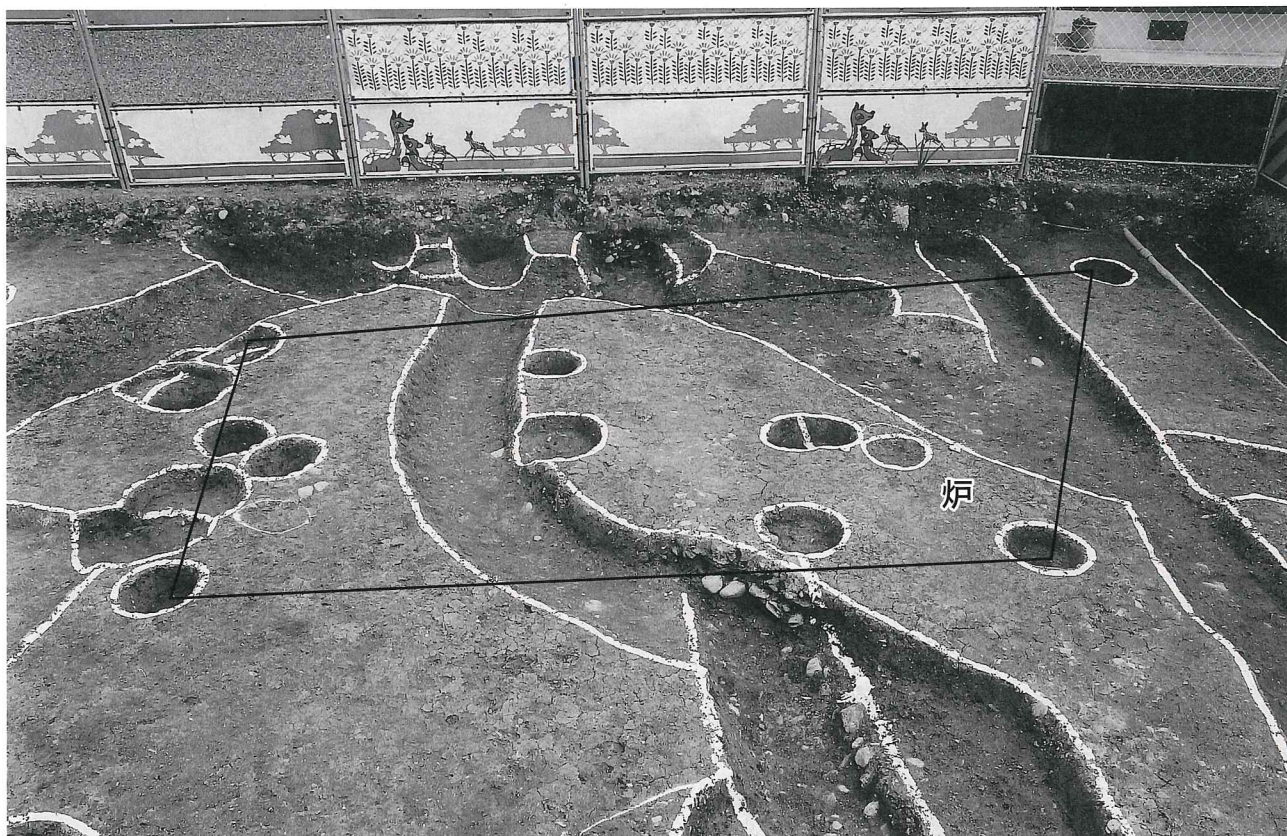
(2) S B 8 かまど付近土器出土状況
(かまどより東側に廃棄された土器で、壺・甕類が出土している。南より)



(1) SB8焼土
(かまどの西側より検出されている。白色粘土が少し含まれるため、古い段階のかまどであった可能性がある。南より)



(2) SB8貯蔵穴
(南側の入口付近に設けられてる。2基あるため作替えが考えられる。南より)

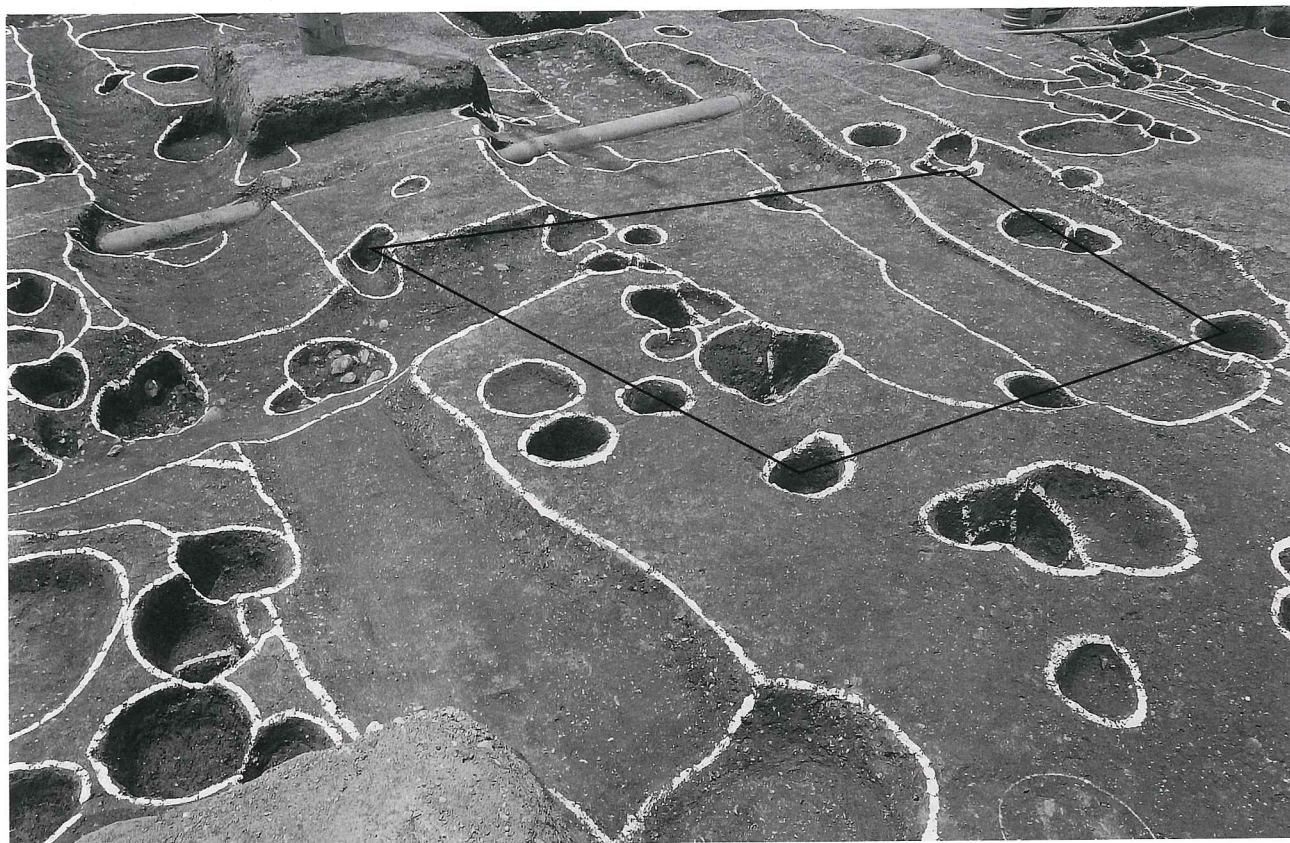


(1) S B 9

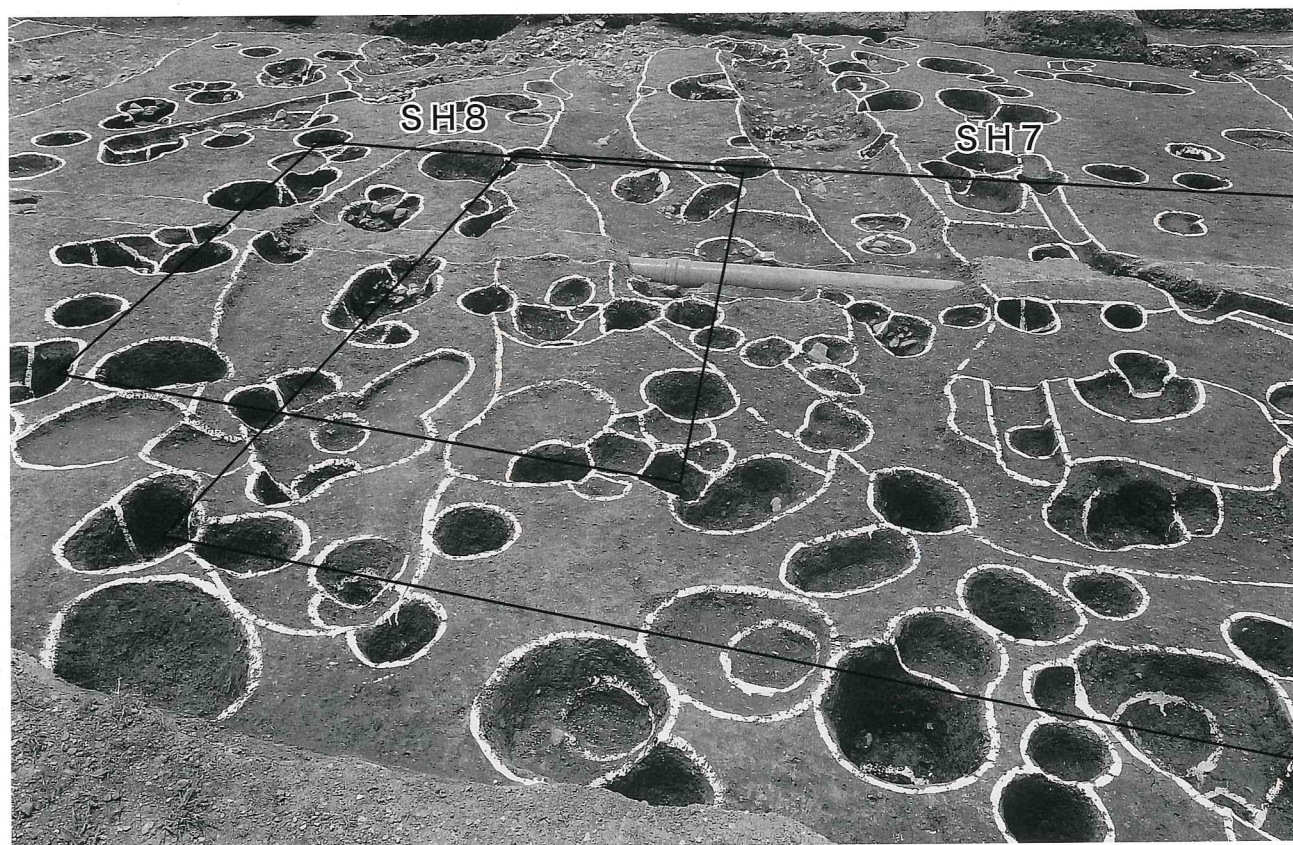
(炉と柱穴しか分からないため、詳細な時期は不明であるが、
地床炉であるため弥生時代後期の竪穴住居であったと思われる。南より)



(2) S B 9 炉跡 (地床炉で、中央がやや窪む。良く焼けている。南より)



(1) SH6 (小規模な掘立柱建物である。古墳時代後期のものであろうか。東より)



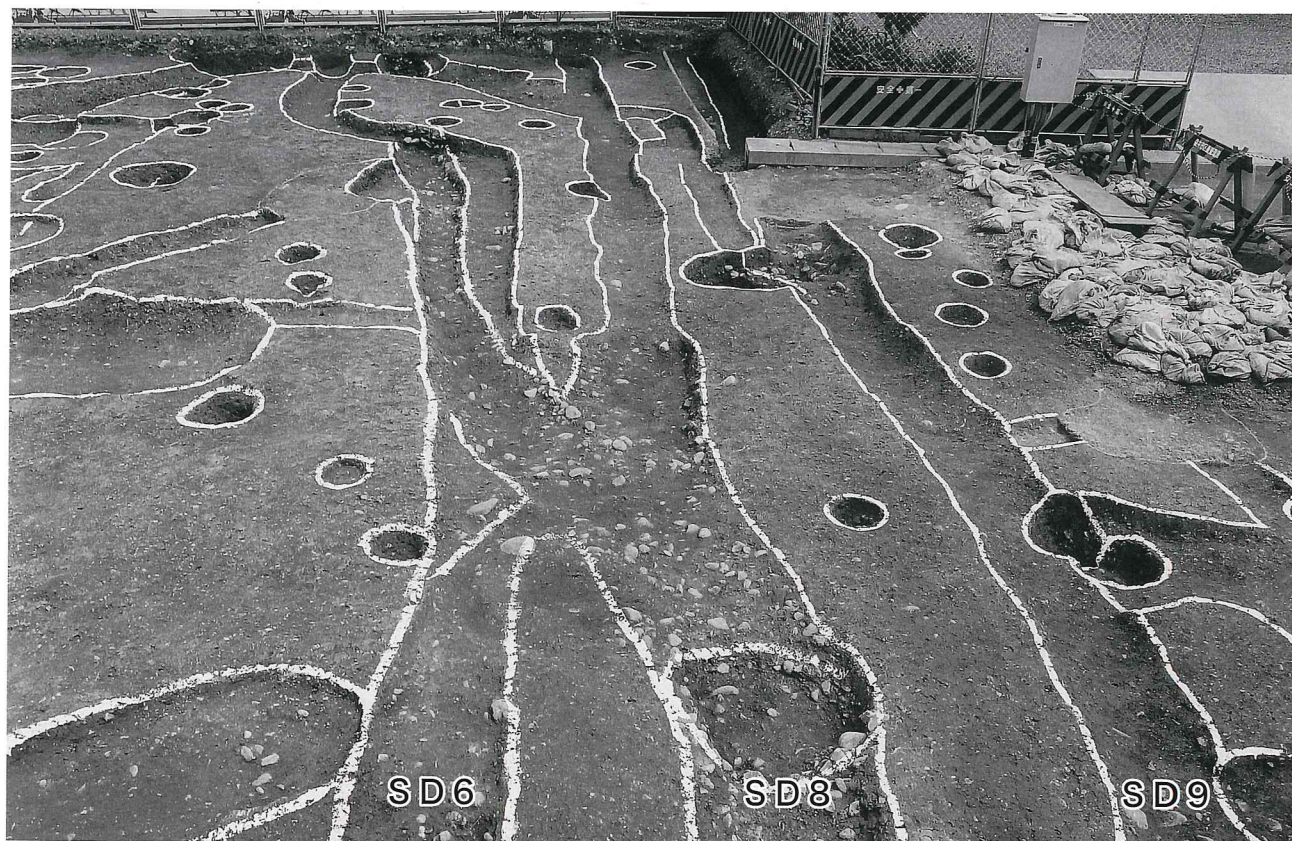
(2) SH7・8
(多数の柱穴が集中するなかで、かろうじて組合せの分かった掘立柱建物である。古墳時代後期のものか。東より)



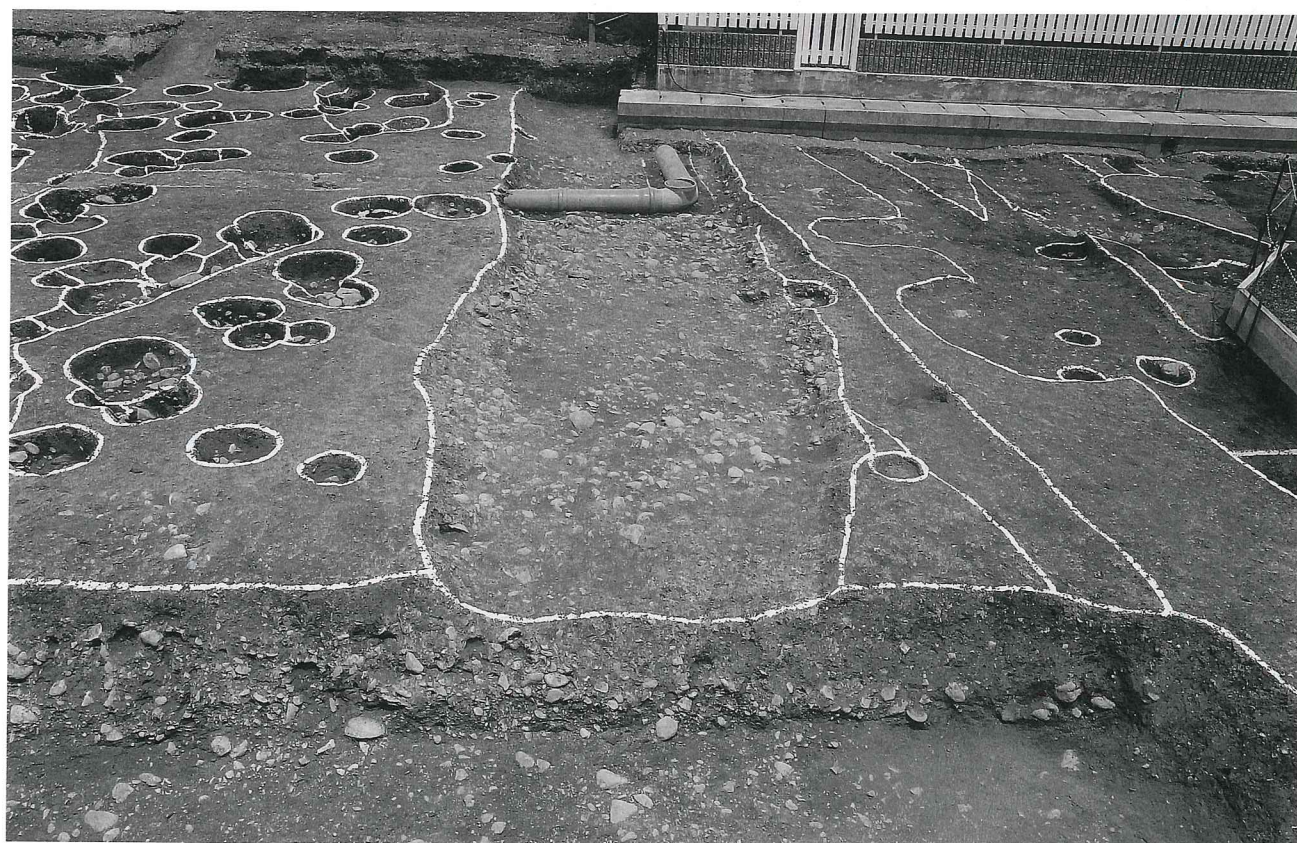
(1) S Z 6 (西溝の一部である。弥生時代中期中葉の土器が出土している。北より)



(2) S Z 6 土器出土状況
(弥生時代中期中葉の特徴をもつものであるが、頸部の破片が
まとまっていた。溝底よりやや浮いた状態で出土した。北より)



(1) SD 6・8・9 (江戸時代末期の畑地の排水用の区画溝であると見られる。南より)

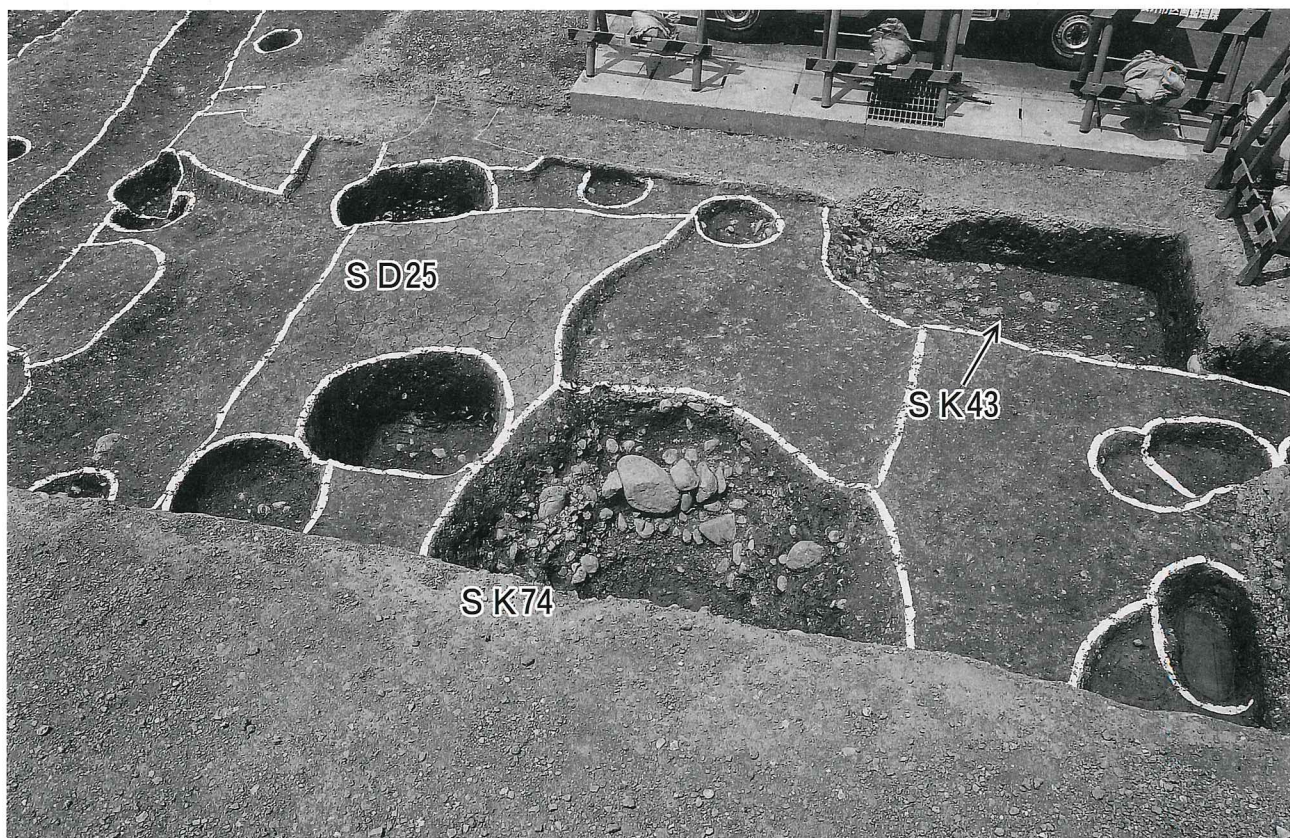


(2) S D41 (奈良時代の郡衙正倉院の北辺を区画する溝である。西より)



(1) S D41土層

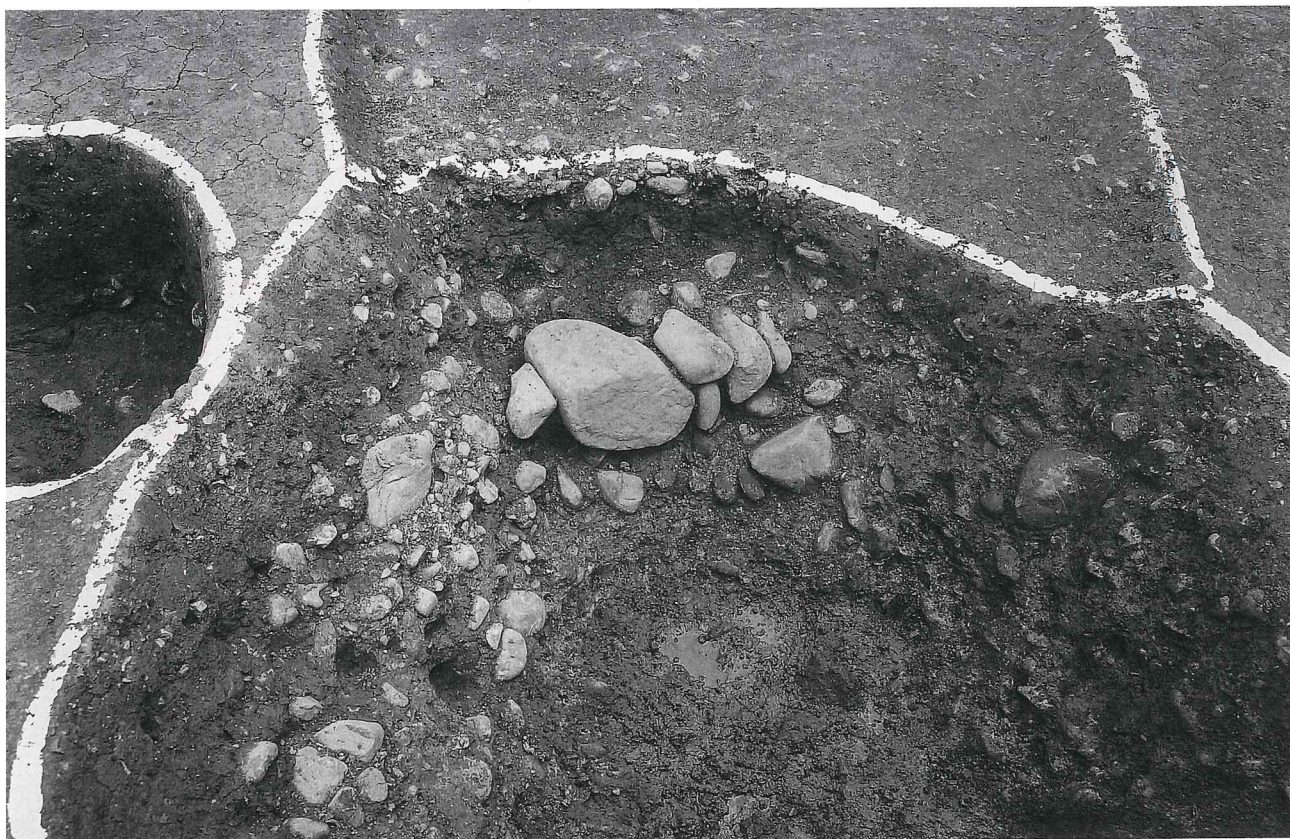
(自然堆積の土層で、短期間に埋められた痕跡、土塁の存在していた痕跡はない。また、土層からは作替えも確認できない。西より)



(2) S D25、S K43・74

(S D25は古墳時代初頭の居館の西辺の区画溝である。

S K43・74は江戸時代末期の水溜用の大型土坑である。南より)



(1) S K74石積（崩れた場所を石積で補修している。南より）

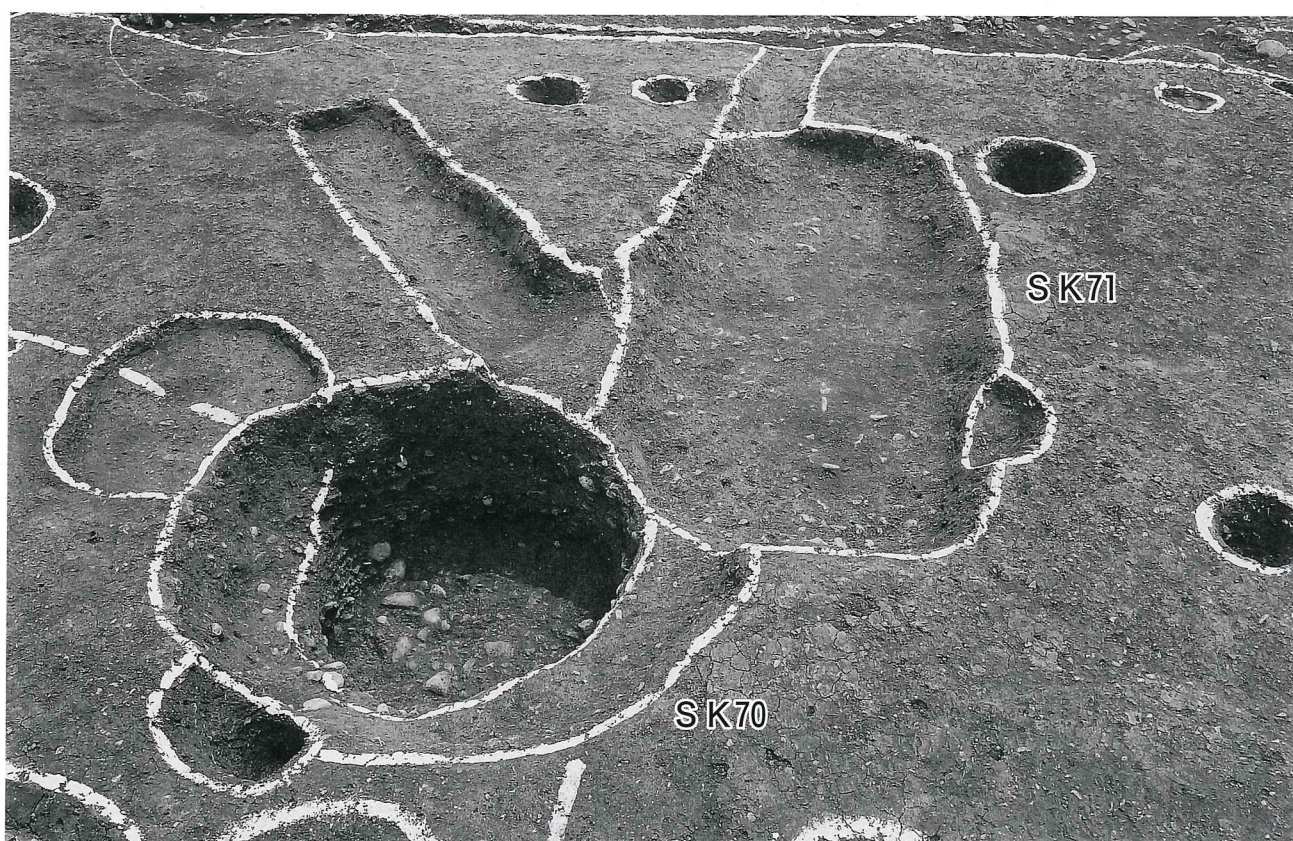


(2) S K62（江戸時代末期の水溜用の大型方形土坑である。北より）



(1) S K65

(江戸時代末期の大型土坑である。陶磁器や礫や瓦が大量に出土したので、付近の屋敷地の建物の部材などを廃棄した土坑と見られる。東より)



(2) S K70・71

(いずれも江戸時代末期の土坑で、S K70は円形で深いため水溜用の土坑と見られる。西より)



(1) S K72

(江戸時代末期の土坑で、円形の桶を固定した痕跡が底に確認できたので桶を設置した肥溜用の土坑と見られる。西より)



(2) S K73 (浅い長方形の大型土坑である。畑地の水溜用の土坑であろうか。西より)



(1) 重機による表土掘削作業
(包含層がほとんど存在していなかったため、遺構各確認面まで表土を除去することができた。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第72次発掘調査区空中写真遠景
(手前の草地が掛之上遺跡東側の段丘涯である。右手の高層マンションまでが掛之上遺跡の範囲である。遠くに磐田原台地が遠望できる。東より)



(2) 第72次発掘調査区空中写真全景
(全面に古墳時代後期と中世の掘立柱建物と見られる柱穴群が見られる。柱穴群は3箇所集中する傾向が認められた。南より)



(1) 第72次発掘調査区空中写真全景
(区画溝の多くは近世～近代の畑地の排水用のものと思われる。北より)



(2) 第72次発掘調査区全景 (比較的平坦な場所で、右手は段丘涯になる。南より)



(1) 第72次発掘調査区全景
(配水管の見える中央部分では、近代の水路とその後
段丘涯下に降る道に改変された跡が認められた。北より)

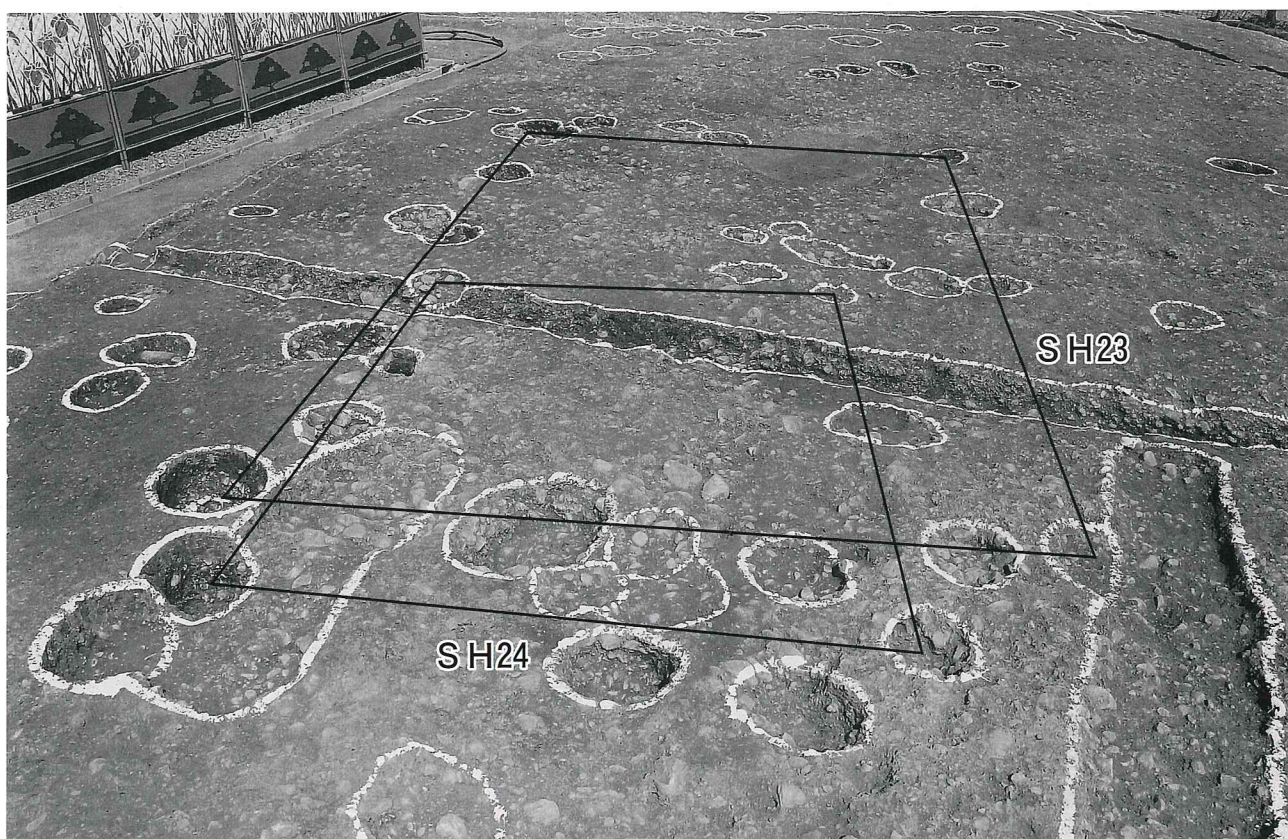


(2) SH23~27空中写真
(一番南側のブロックの掘立柱建物群で、5棟の掘立柱建物が存在することが判明した。東より)

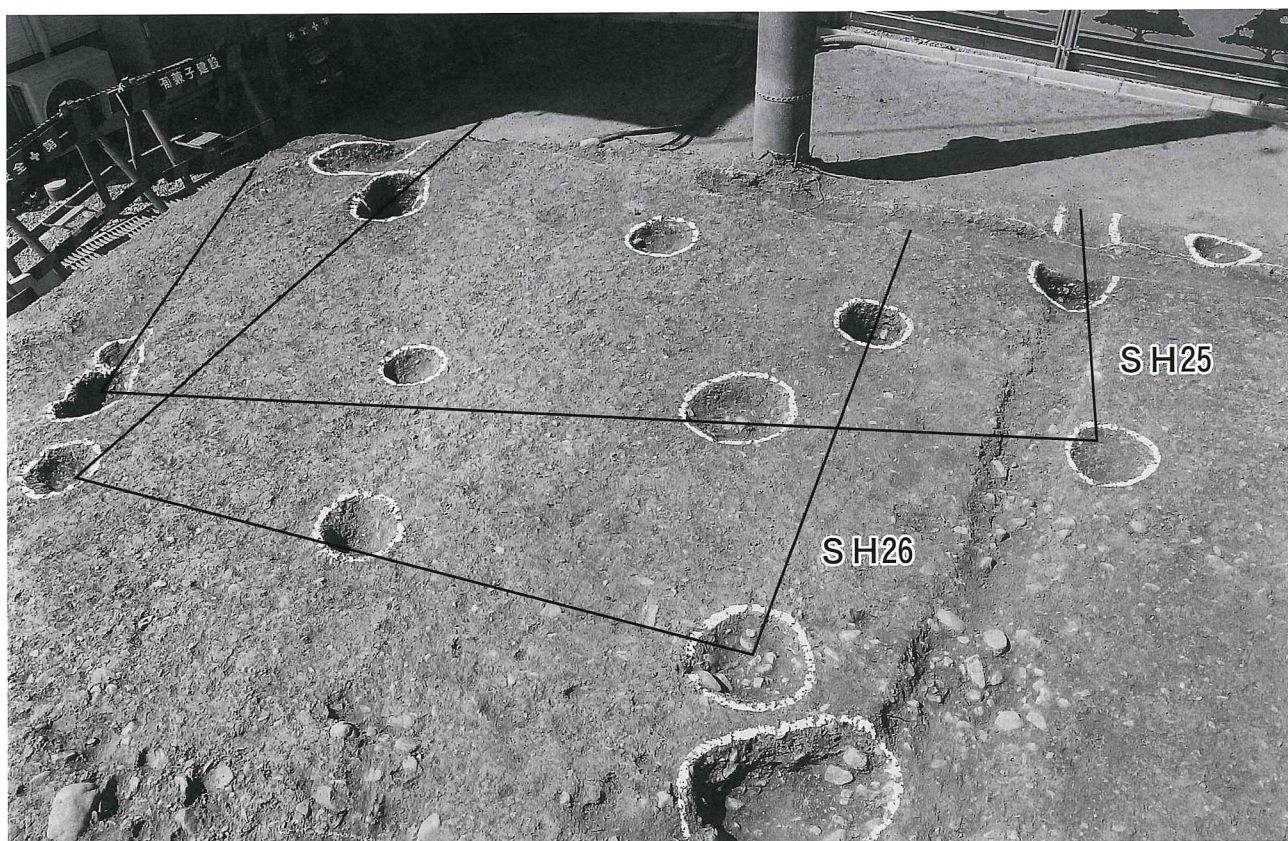


(1) SH23～27空中写真

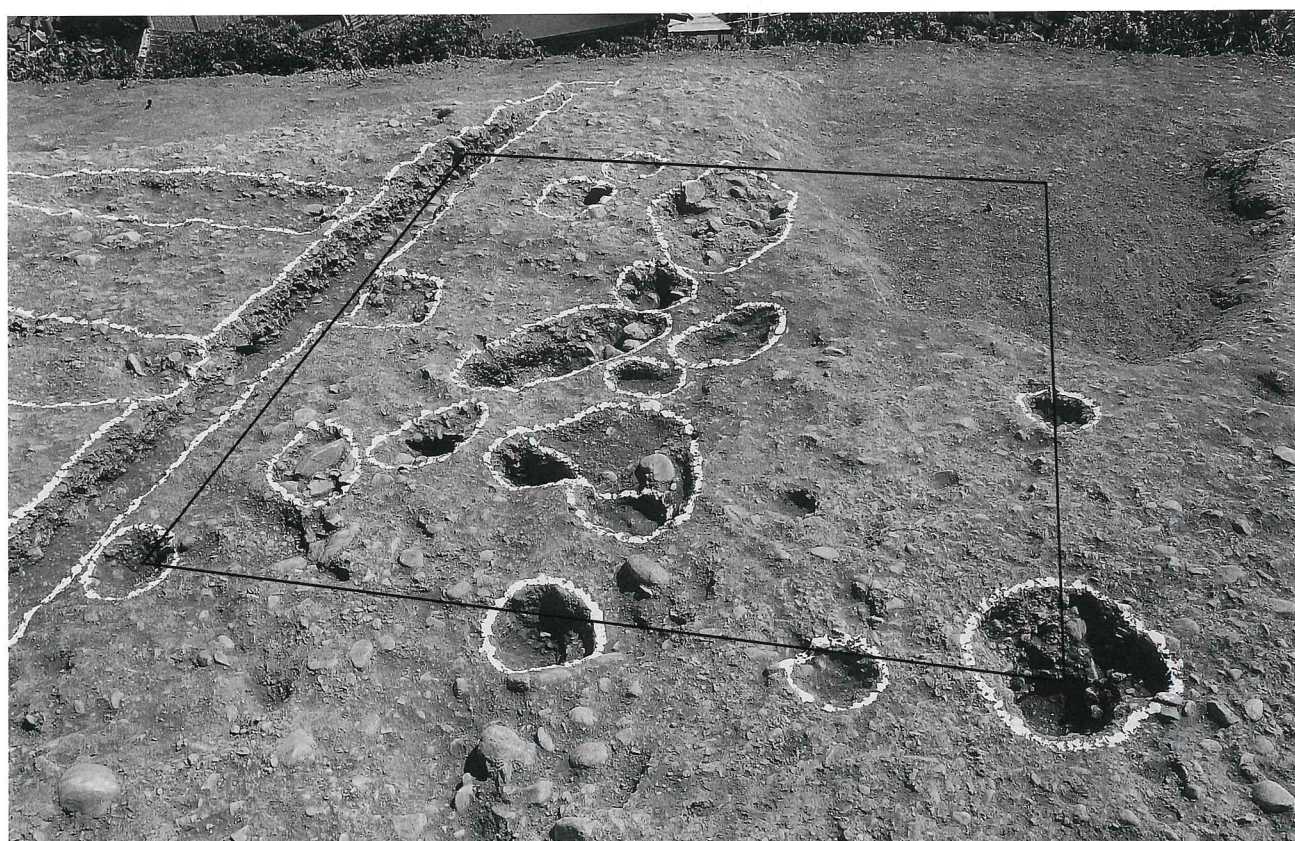
(溝については近世～近代の畑地の排水用の区画溝で掘立柱建物に伴うものでない。上が西で、真上より)



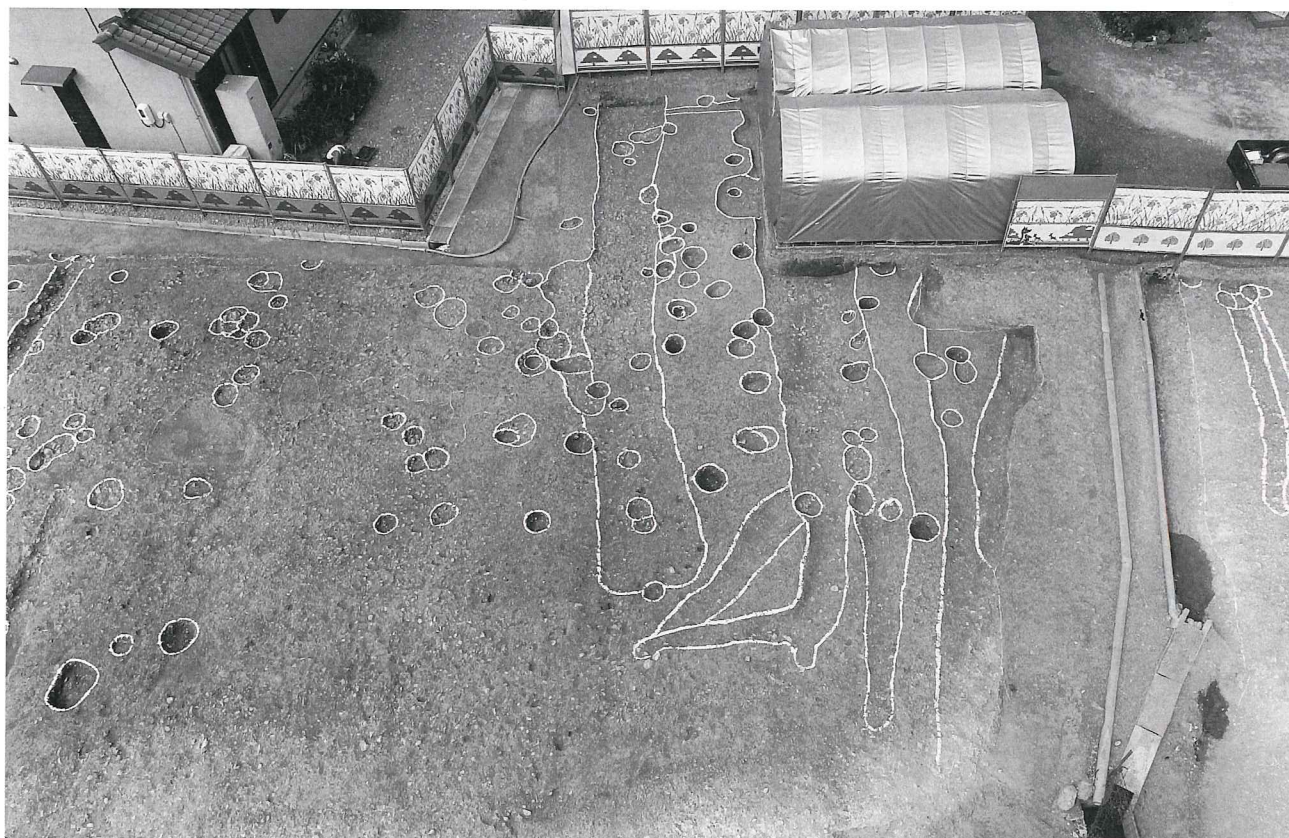
(2) SH23・24 (SH23は比較的大きな掘立柱建物である。南より)



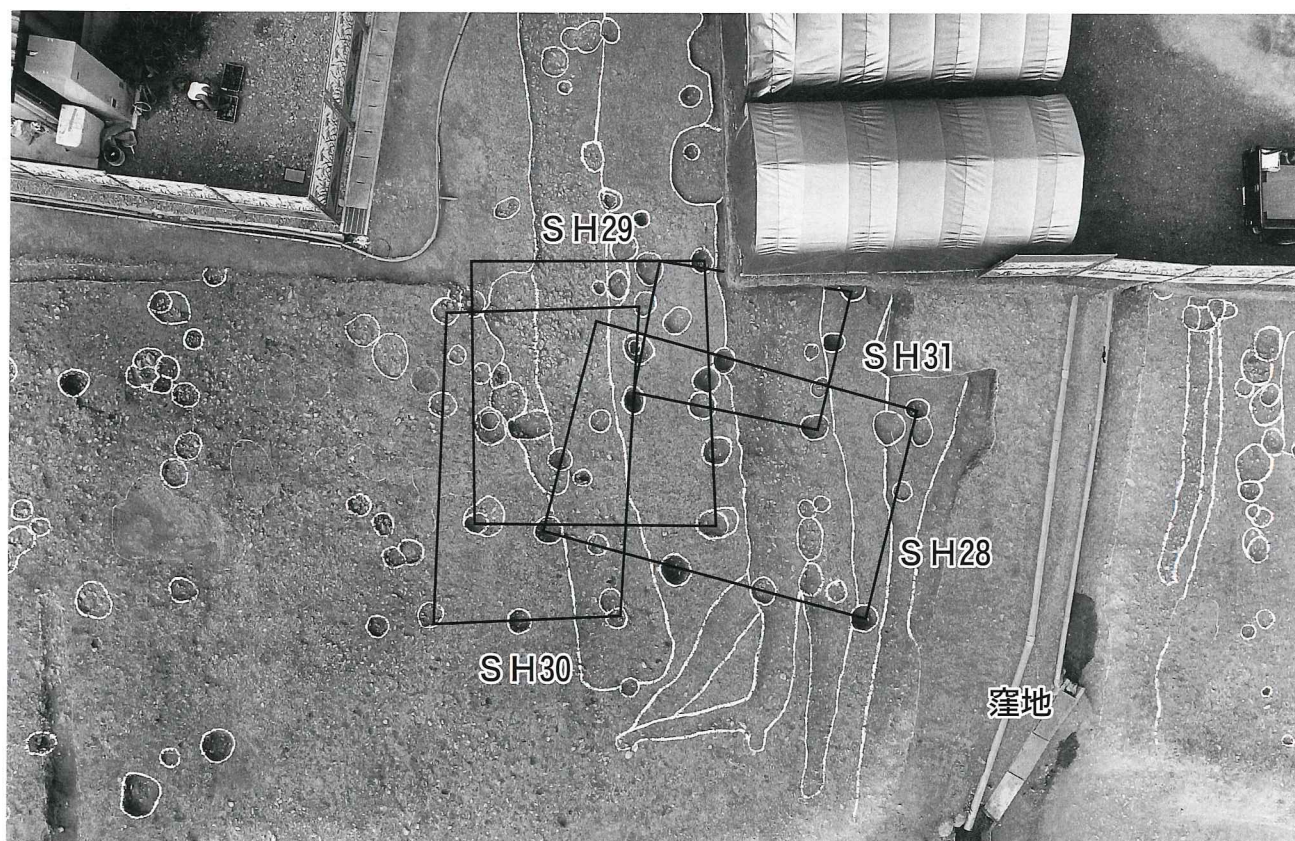
(1) SH25・26 (2棟は重複し、いずれも規模の小さな掘立柱建物である。東より)



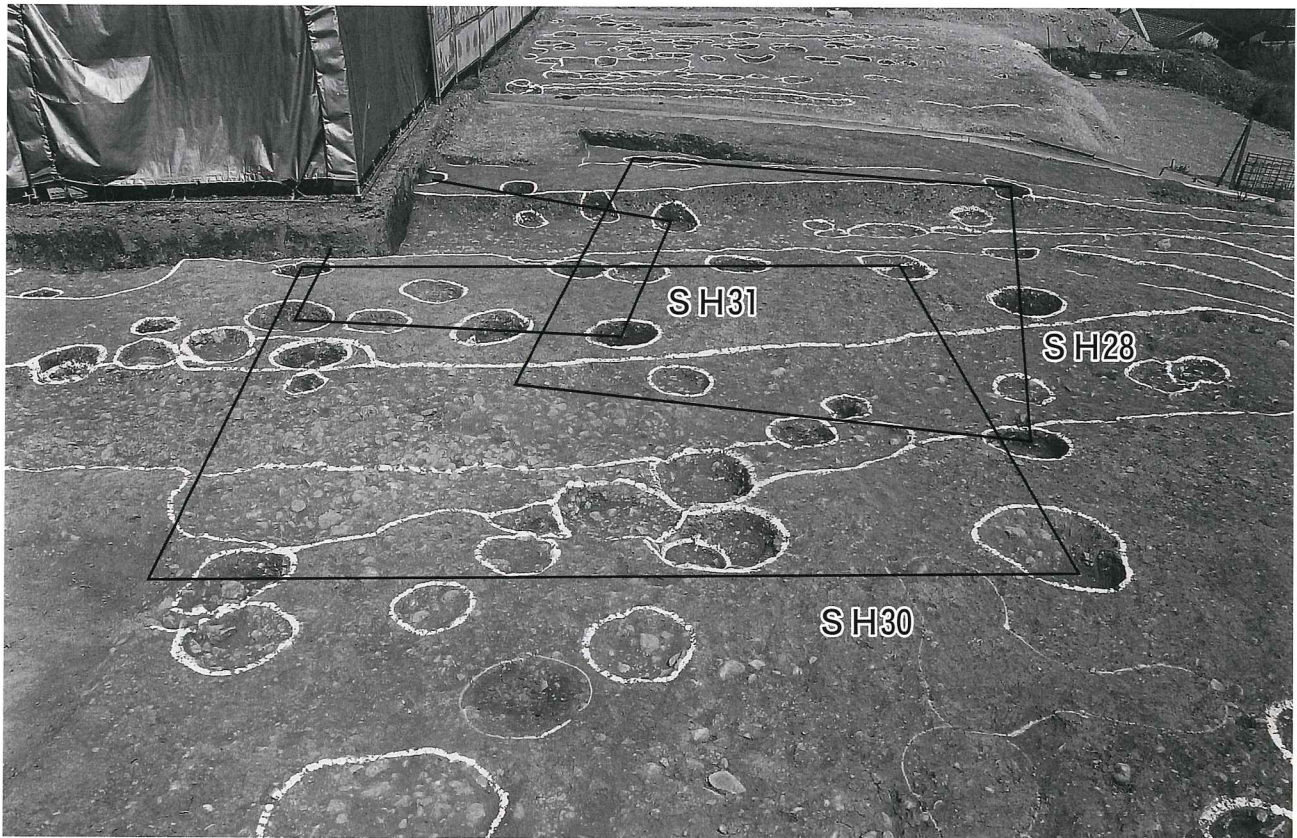
(2) SH27 (段丘涯に近い場所に存在し、規模の小さな掘立柱建物である。西より)



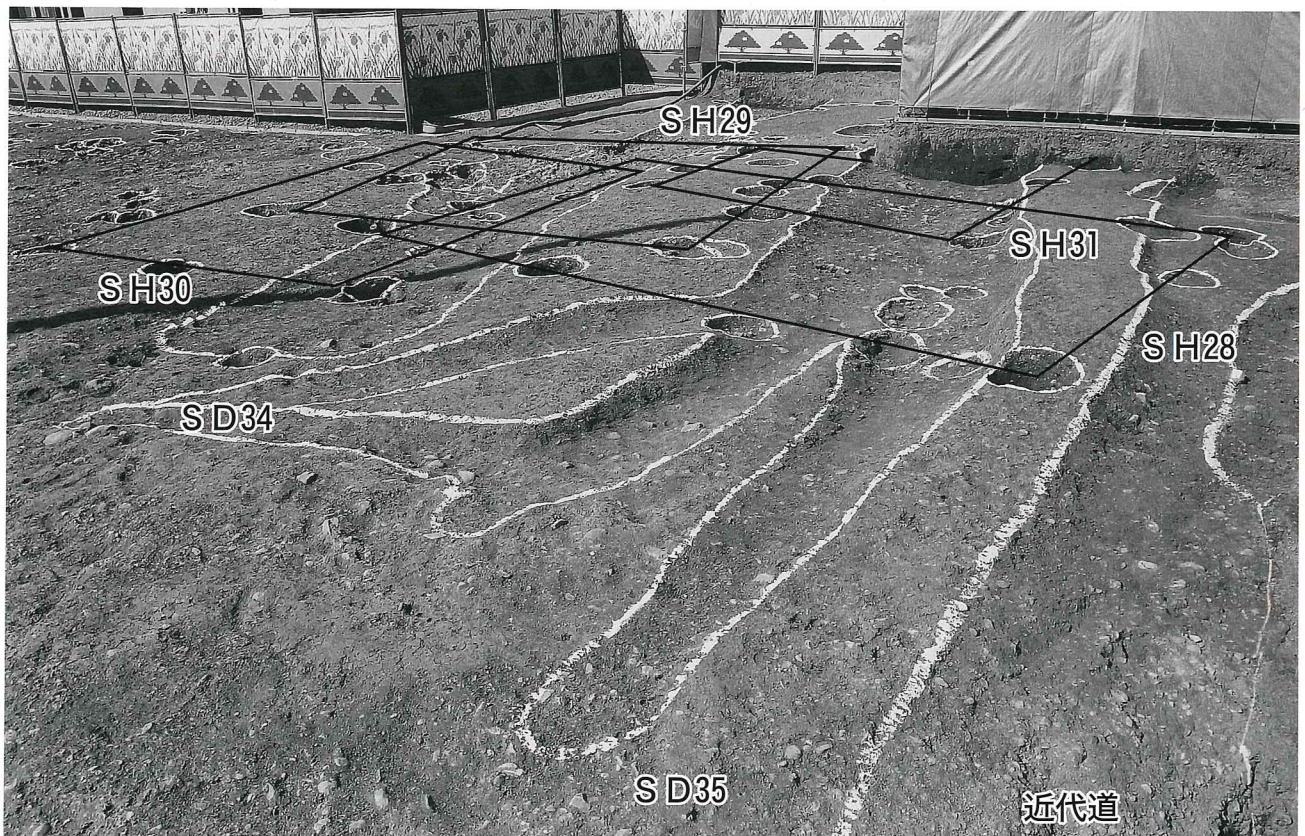
(1) SH28~31空中写真
(中央のブロックの掘立柱建物群で、4棟の掘立柱建物が存在することが判明した。東より)



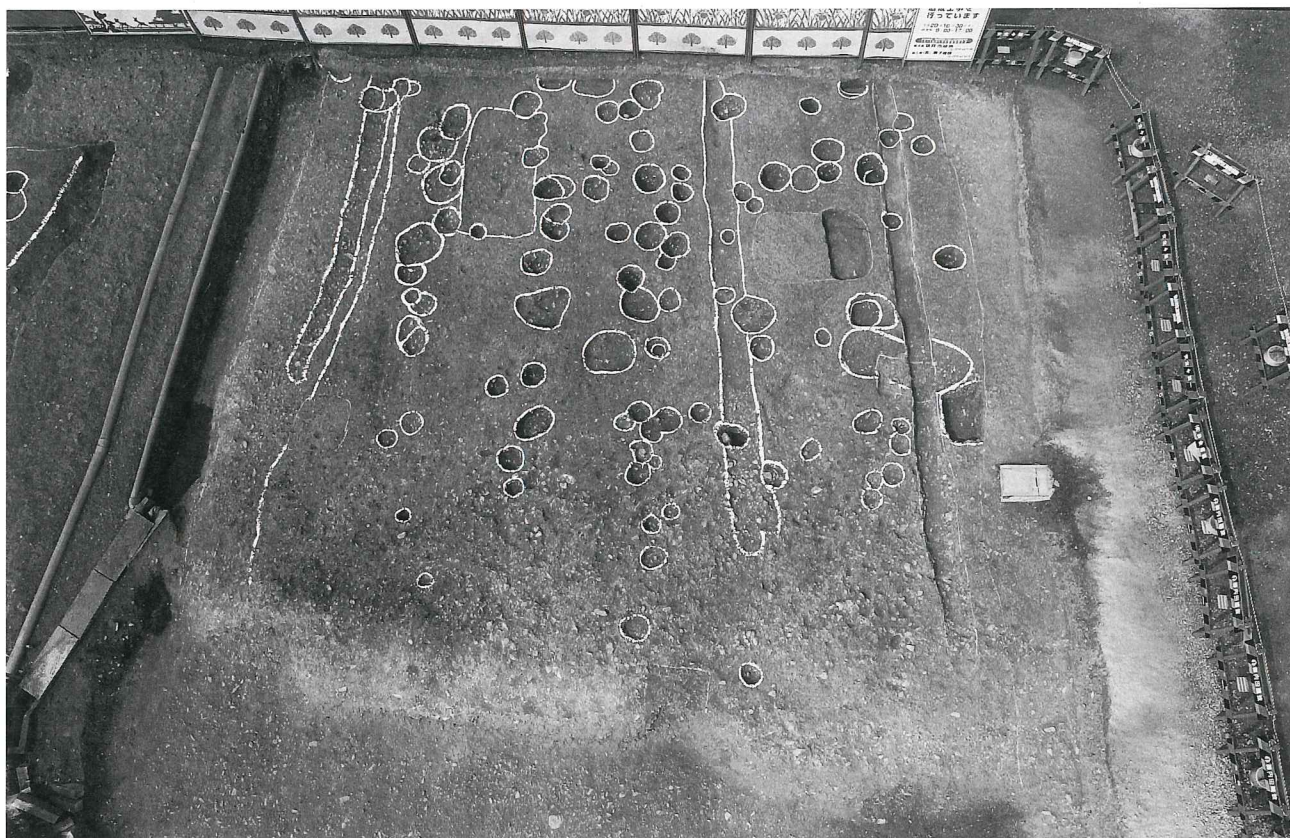
(2) SH28~31空中写真
(溝については弥生時代後期と近世～近代の畑地の排水用の区画溝で掘立柱建物に伴うものでない。弥生時代後期以来窪地で水通になっていたものと思われる。上が西で、真上より)



(1) SH28・30・31
(4棟が重複しており、SH28以外は規模の小さな掘立柱建物である。南より)



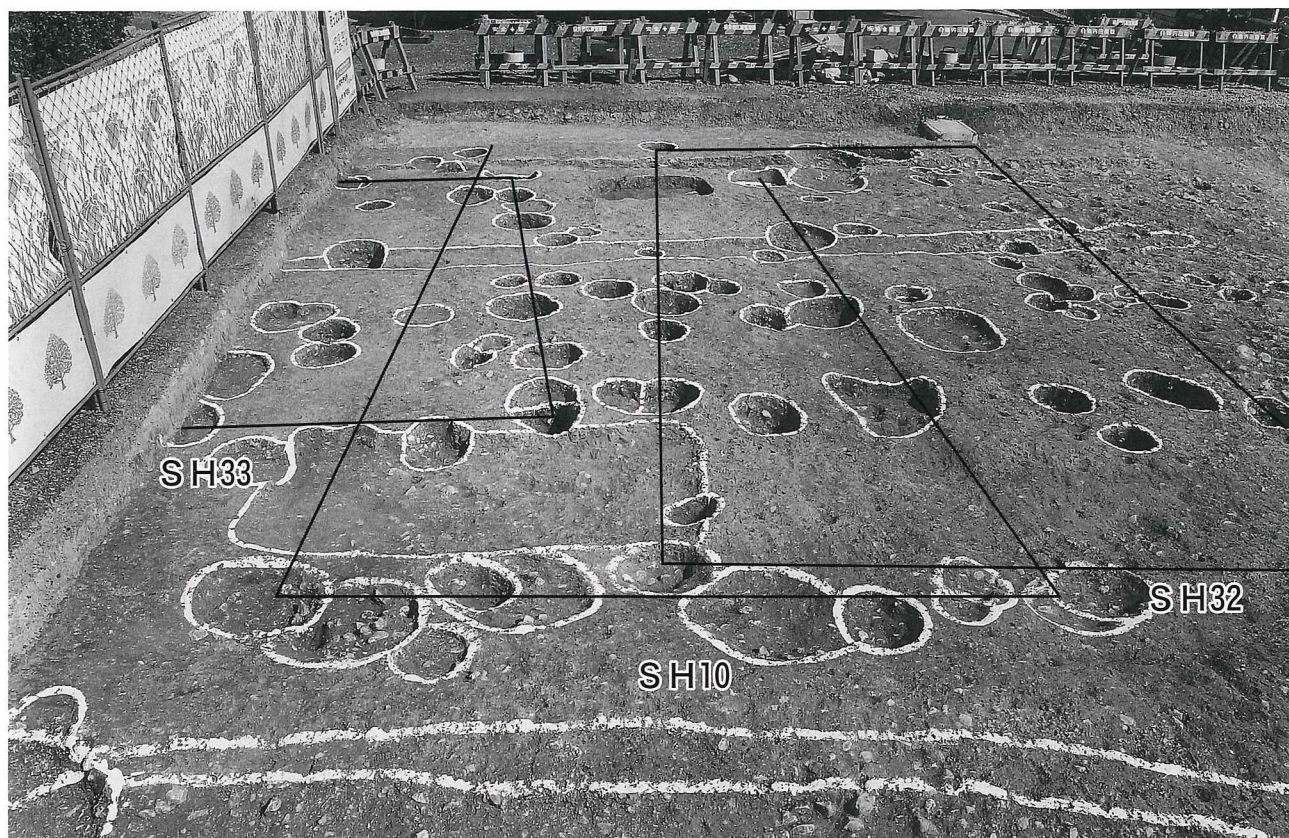
(2) SH28～31、SD34・35
(SD34は弥生時代後期の溝、SD35は江戸時代末期の溝で掘立柱建物とは関係がない。東より)



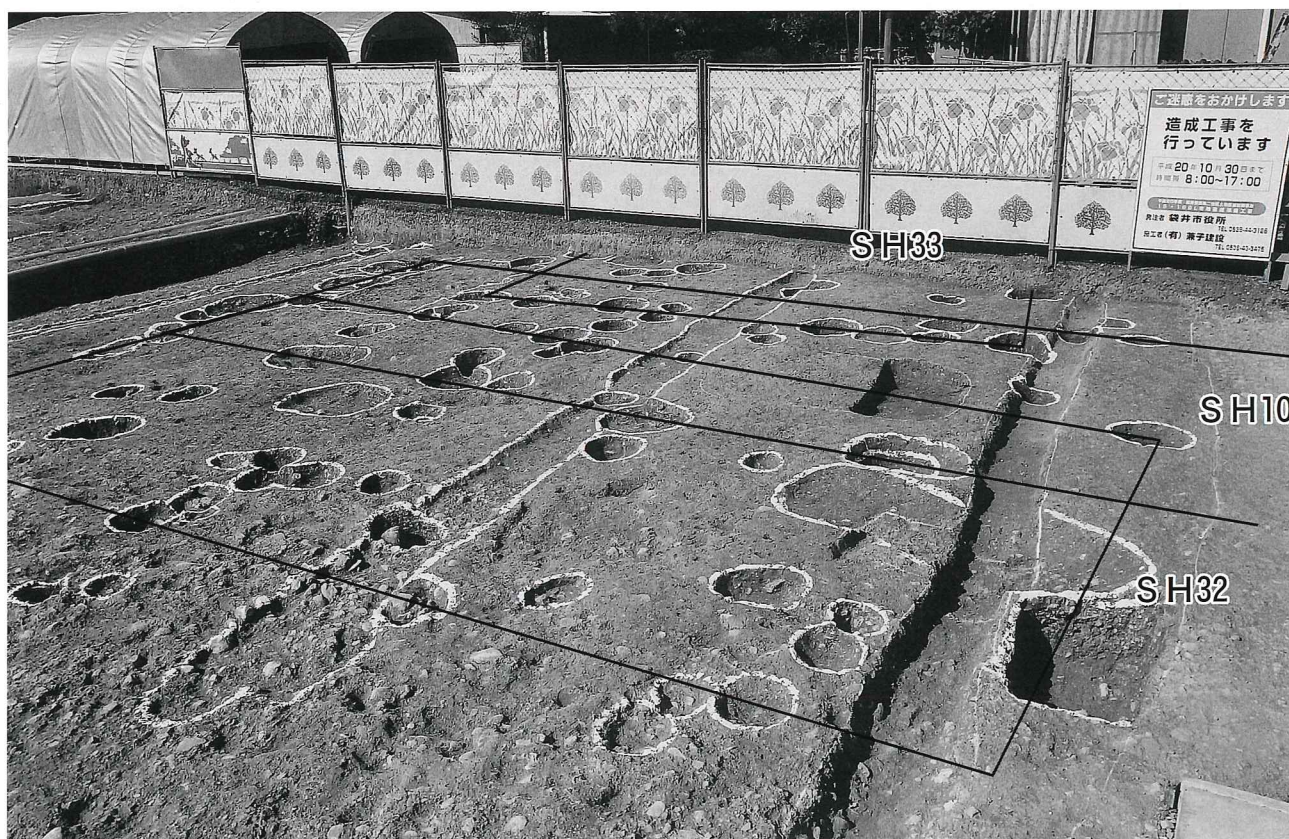
(1) SH10・32・33空中写真
(北側のブロックの掘立柱建物群で、3棟の掘立柱建物が存在することが判明した。東より)



(2) SH10・32・33空中写真
(3棟ともに縦長の規模の大きな掘立柱建物であるが重複する。上が西で、真上より)

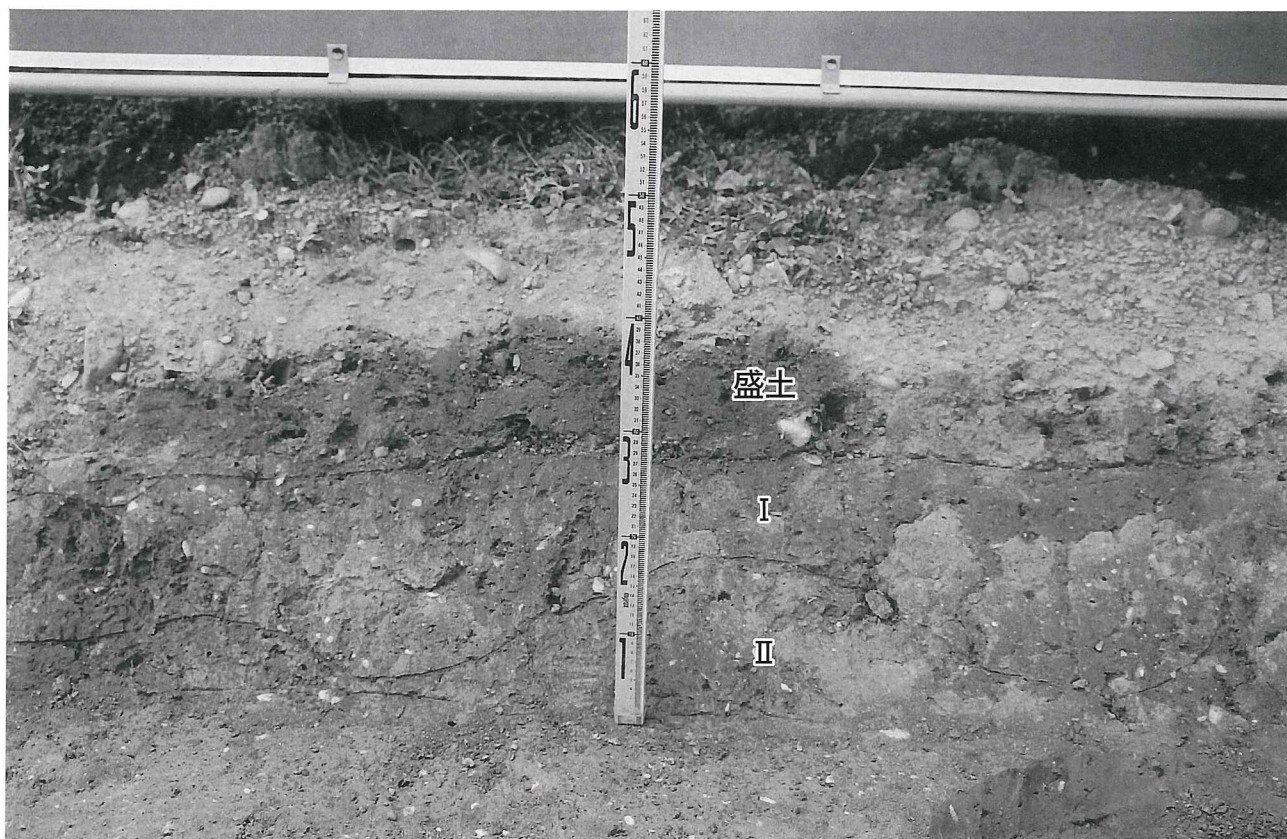


(1) SH10・32・33 (柱穴の掘方の大きなものが多い。南より)



(2) SH10・32・33

(溝は近世～近代の畑地の排水用区画溝で、掘立柱建物とは関係がない。東より)



(1) 調査区中央部分西壁土層
(部分的に存在した厚さ10cm程度の包含層が認められたが、調査区のほとんどには及ばない。東より)



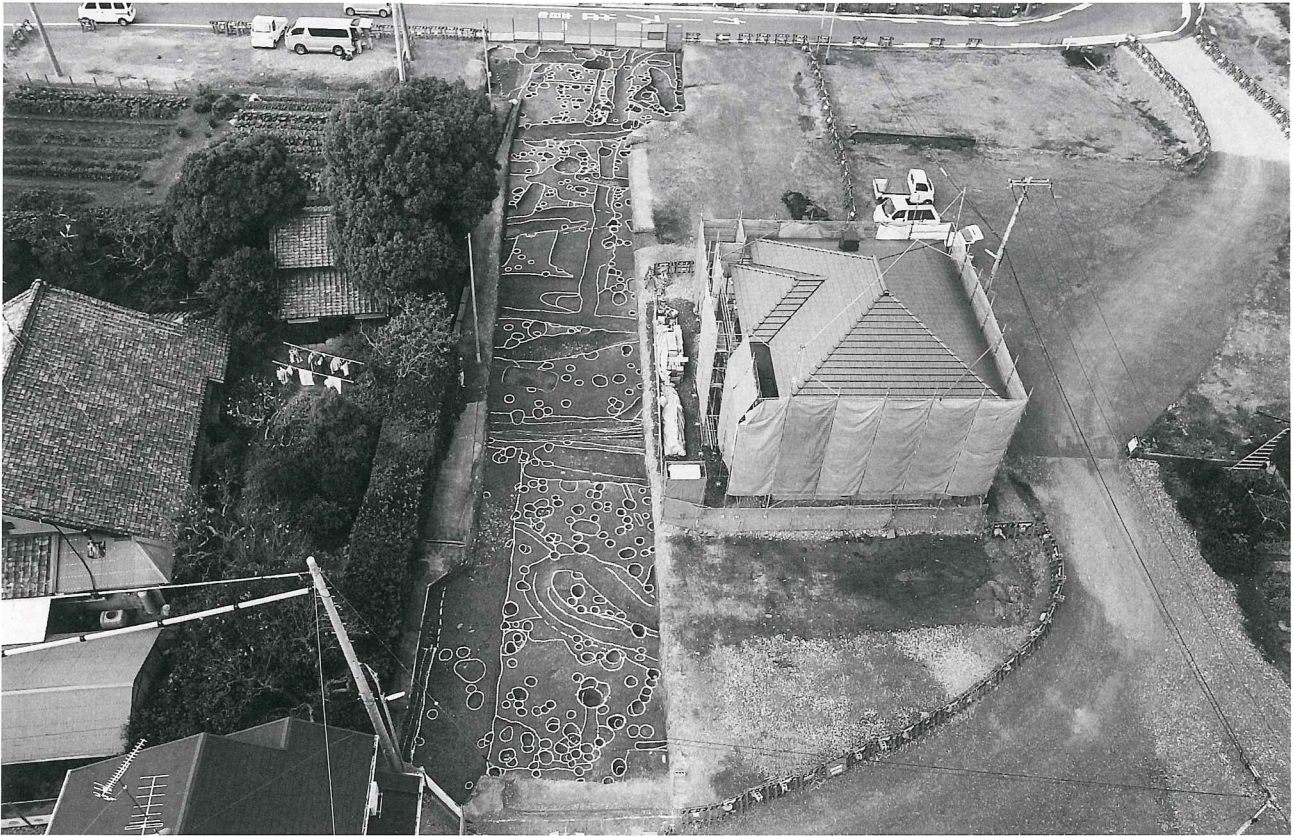
(2) 重機による表土掘削作業
(包含層がほとんど存在していなかったため、遺構各確認面まで表土を除去することができた。)



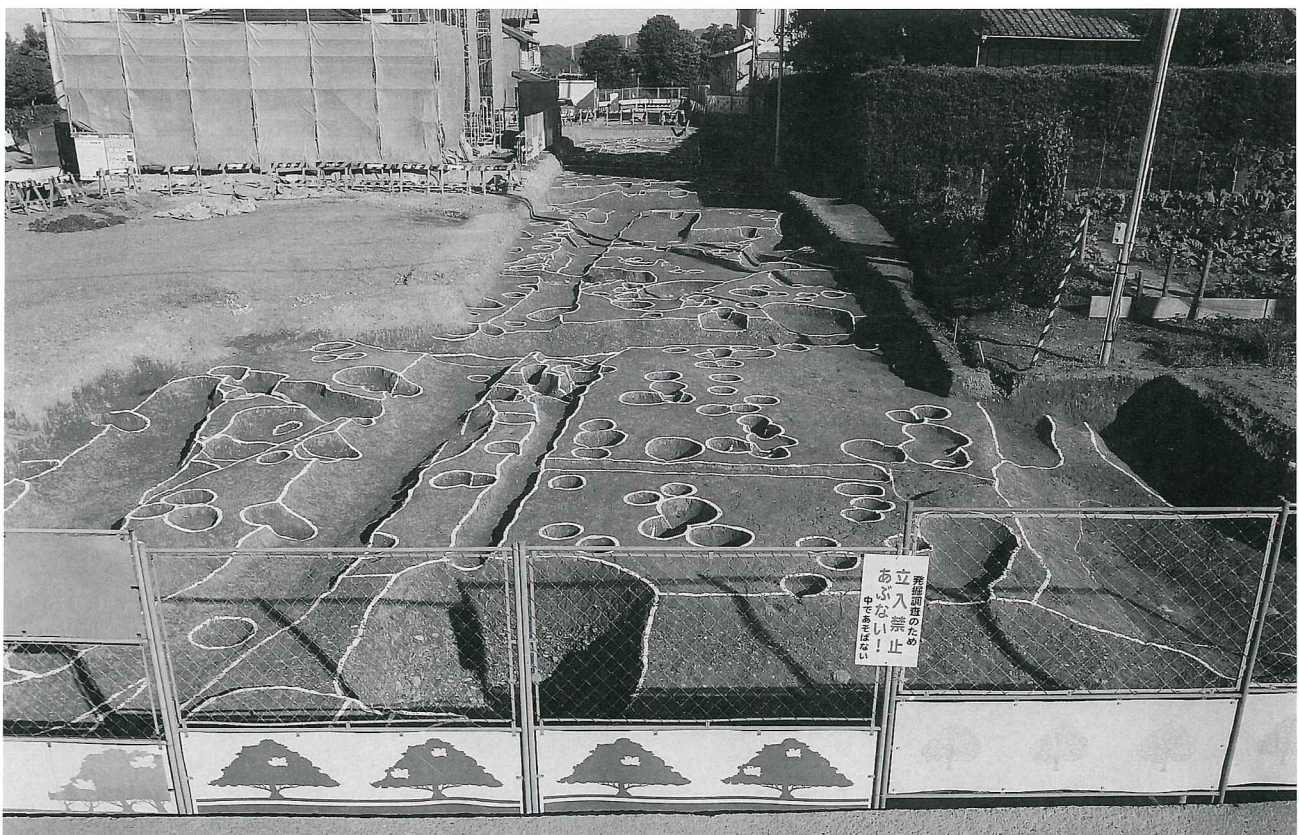
(1) 作業員による遺構調査作業風景（中央の柱穴群の調査を進めている。）



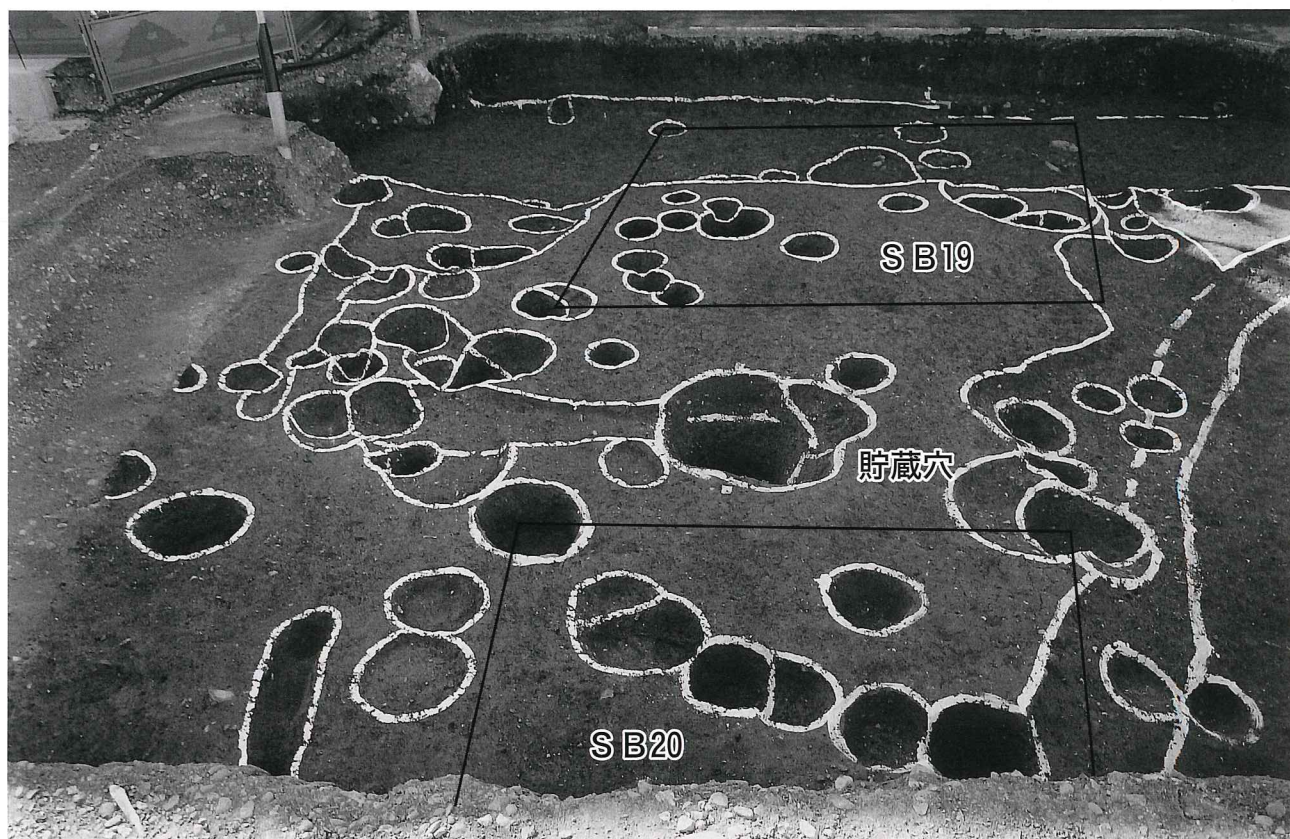
(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第73次発掘調査区空中写真全景
(手前に古墳時代後期の竪穴住居と掘立柱建物、奥に弥生時代中～後期の方形周溝墓が
検出された。弥生時代中～後期では居住域と墓域が接する場所であることが判明した。東より)



(2) 第73次発掘調査区全景
(全面に弥生時代中～後期の方形周溝墓と土器棺、古墳時代後期の竪穴住居や掘立柱建物、
戦国時代の掘立柱建物などが見られる。遺構数は多い場所である。西より)



(1) S B19・20

(古墳時代後期の竪穴住居である。柱穴や貯蔵穴、壁溝の一部の検出に留まるもので、全体の形状は不明である。かまども見つからない。北より)



(2) S B20貯蔵穴土器出土状況

(上層からも坏が出土しているが、写真は下層の土師器の出土状況である。高坏や壺の破片が出土している。南より)



(1) S B20貯蔵穴土層（土層からは一度に埋められた様子は観察できなかった。南より）



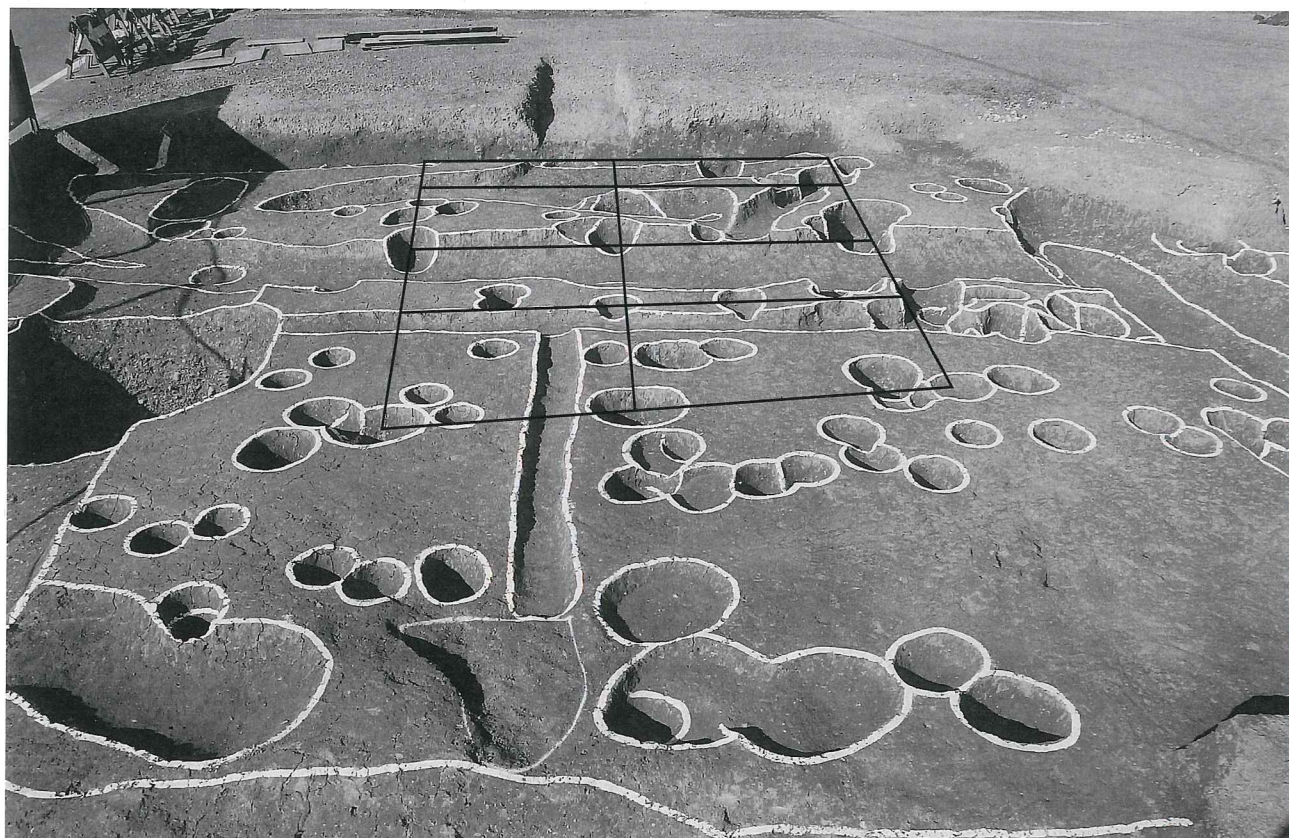
(2) S H34（古墳時代後期の総柱の掘立柱建物と思われる。南より）



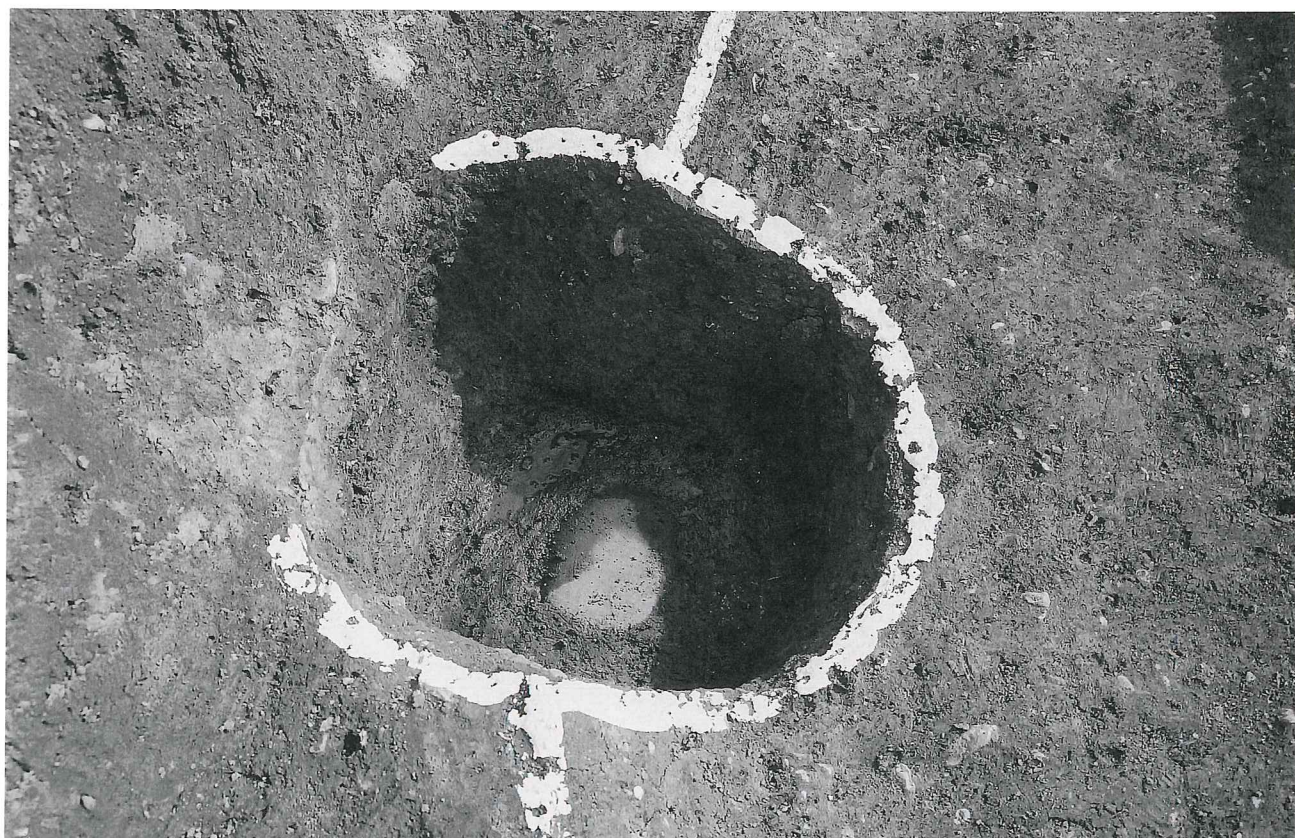
(1) SH35 (古墳時代後期の総柱の掘立柱建物と思われる。南より)



(2) SH36 (古墳時代後期の掘立柱建物と思われる。西より)



(1) S H37 (古墳時代後期の総柱の掘立柱建物と思われる。南より)

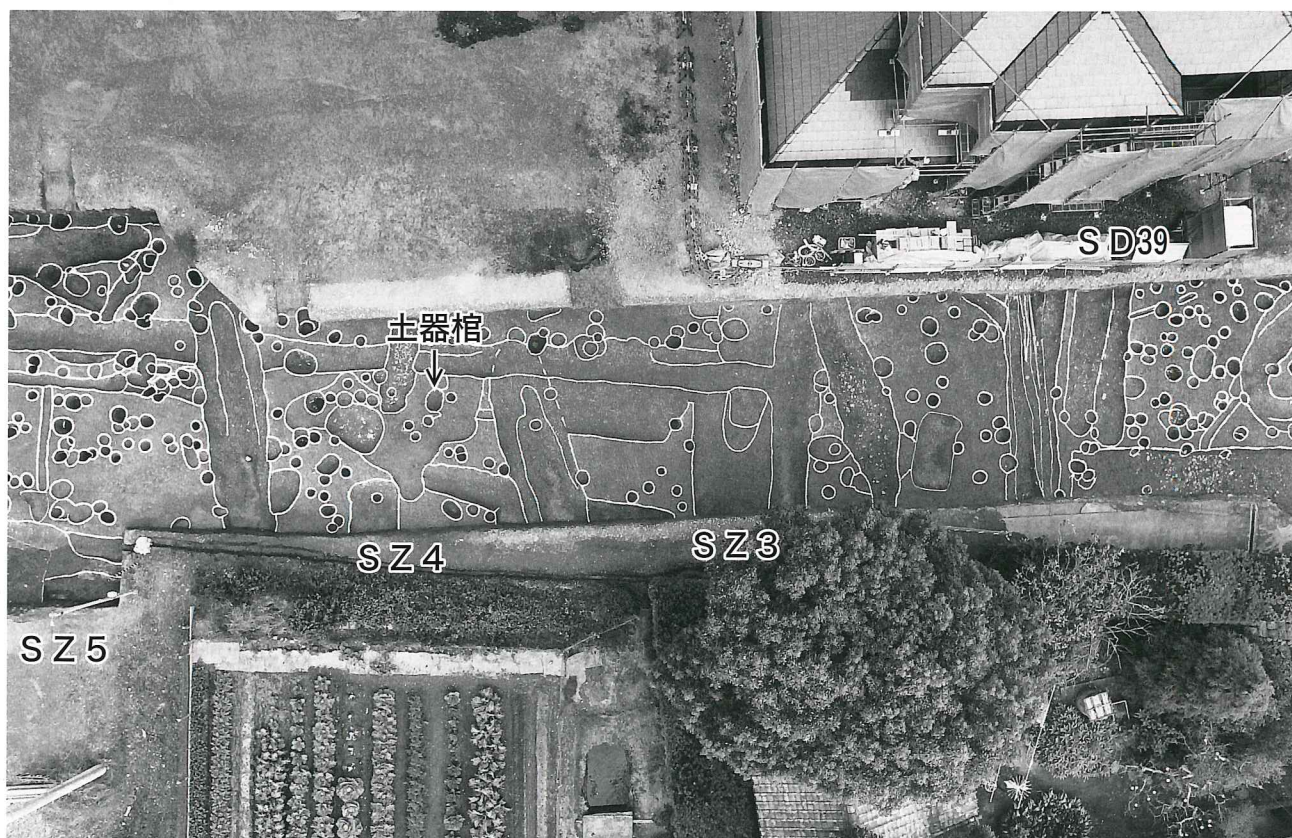


(2) S H37柱穴 (底に礎石に使用された、扁平な礫が据えられていた。西より)



(1) SZ3～5 空中写真

(溝が切り合う連続する方形周溝墓であるが、SZ5が中期後葉SZ3は後期に降るものである。東より)



(2) SZ3～5 空中写真

(全体の形状は分からないが、四隅に陸橋をもつか、浅い連結溝で繋がる形態になるようである。上が北で、真上より)



(1) S Z 3 西溝土層（自然に埋没したようで、墳丘土の流れ込みは見られない。南より）



(2) S Z 3 東溝土層（自然に埋没したようで、墳丘土の流れ込みは見られない。南より）



(1) S Z 3 東溝土器出土状態
(溝底よりやや浮いた場所から横倒し状態で出土した。南より)



(2) S Z 4 (東・西溝の検出のみで全体の形状は分からない。北より)



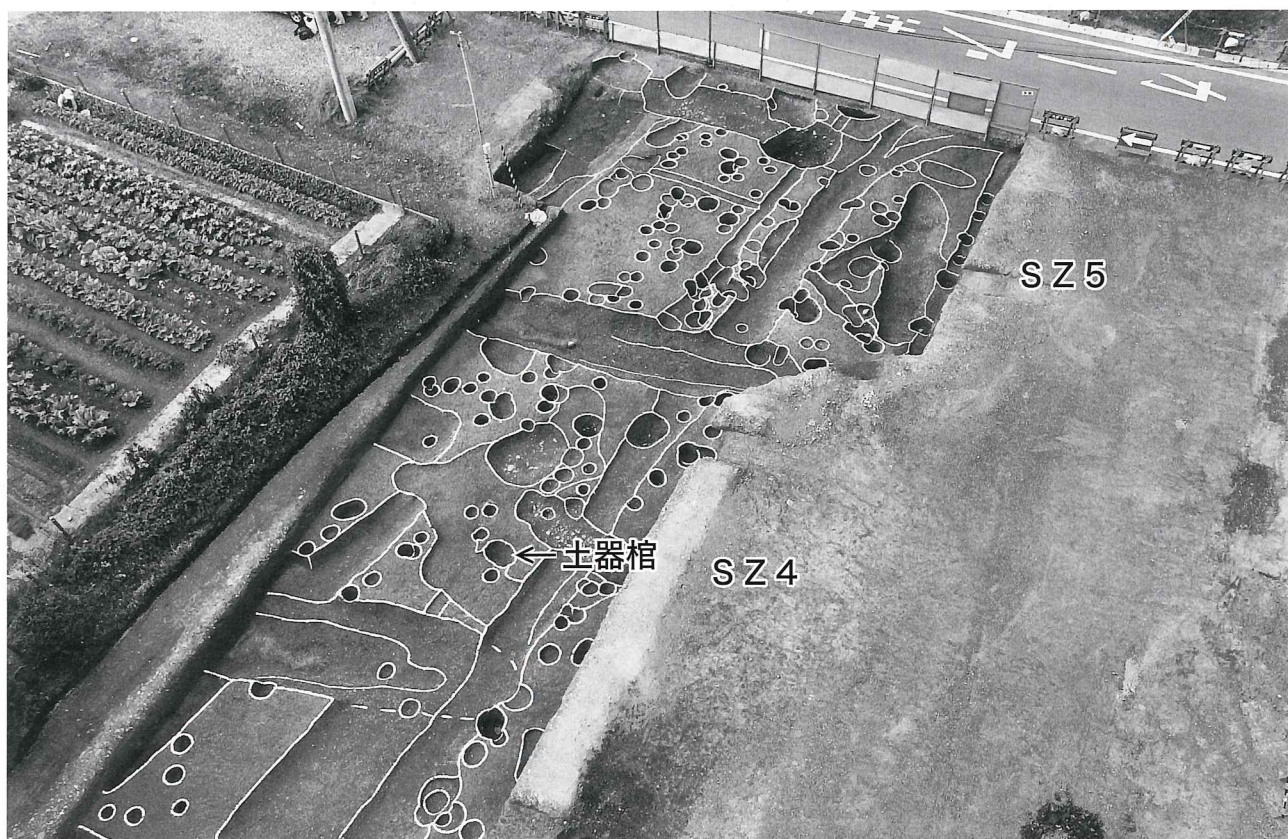
(1) SZ 4 西溝

(溝の南側の部分より、溝底よりやや浮いた状態で人頭大の自然礫が出土した。
溝底に段が認められるが、溝内土坑ではなくて、掘直しの痕跡かと思われる。北より)



(2) SZ 4 西溝土層

(自然に埋没したようで、墳丘土の流れ込みは見られない。溝底の段については
掘直しの痕跡ならば、土層から見ると溝幅を広げたものと見られる。南より)



(1) S Z 4・5 空中写真

(S Z 5は四隅に陸橋をもつ、中期後葉の典型的な方形周溝墓である。S Z 4方台部内には土器棺が埋葬されているがS Z 4に伴うものかどうかは分からない。北東より)



(2) S Z 5 西溝土層

(自然に埋没したようで、墳丘土の流れ込みは見られない。
中央部分に土器が廃棄されている様子が良く分かる。南より)



(1) S Z 5 西溝土器出土状況
(溝の中央部分に溝底からかなり浮いた状態で、並ぶように壺が6点廃棄されていた。南より)



(2) S Z 5 西溝No 1 土器出土状況
(上半分が欠損しているので、方形周溝墓に伴う祭祀用土器かどうか分からない。東より)



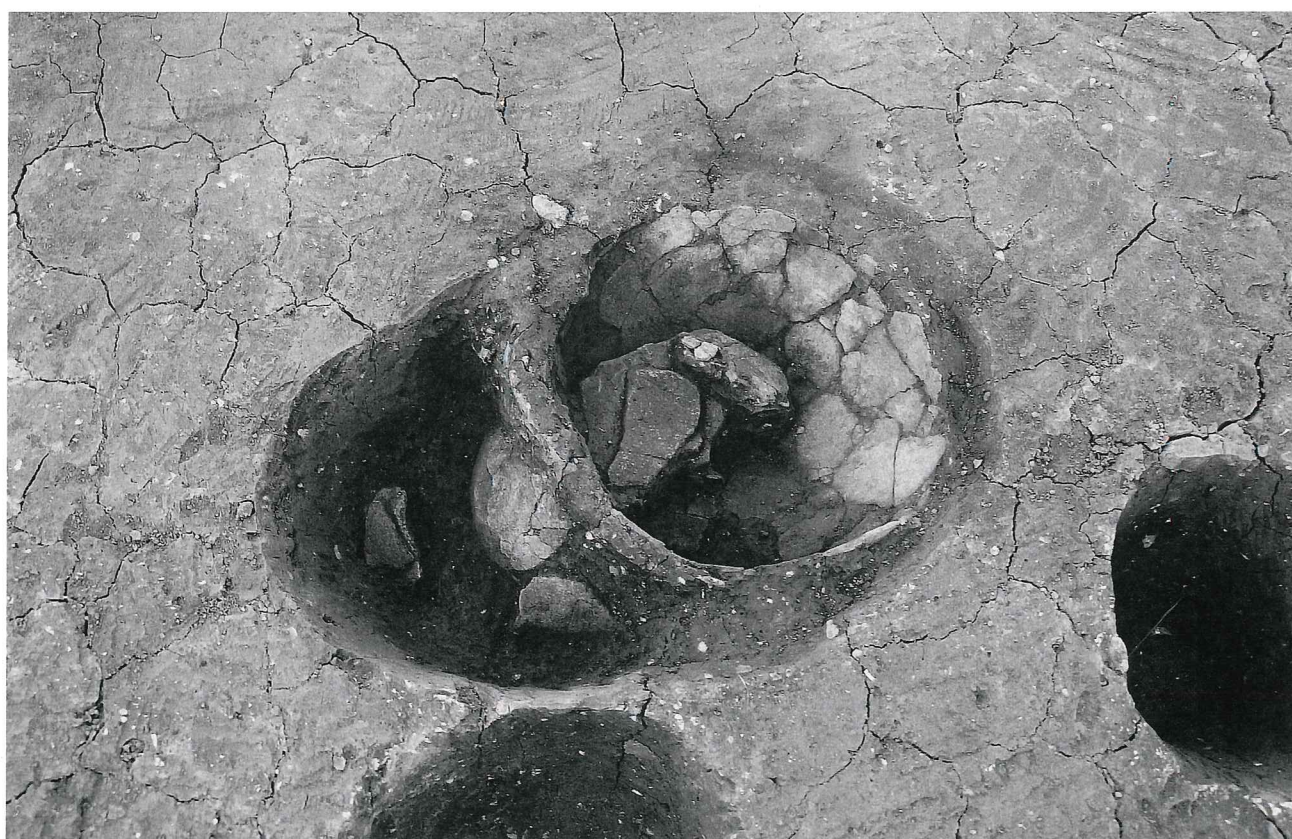
(1) S Z 5 西溝No 2・3 土器出土状況
(3は口縁部のみ、2は上半分が欠損しているので、
これも方形周溝墓に伴う祭祀用土器かどうか分からない。東より)



(2) S Z 5 西溝No 4～6 土器出土状況
(何れも破片で出土しており、これらも方形周溝墓に伴う祭祀用土器かどうか分からない。東より)



(1) S Z 5 西溝 No 8・7 土器出土状況
(後期の小型壺であるため S Z 5 ではなくて、別の方形周溝墓に伴う可能性が高い。東より)

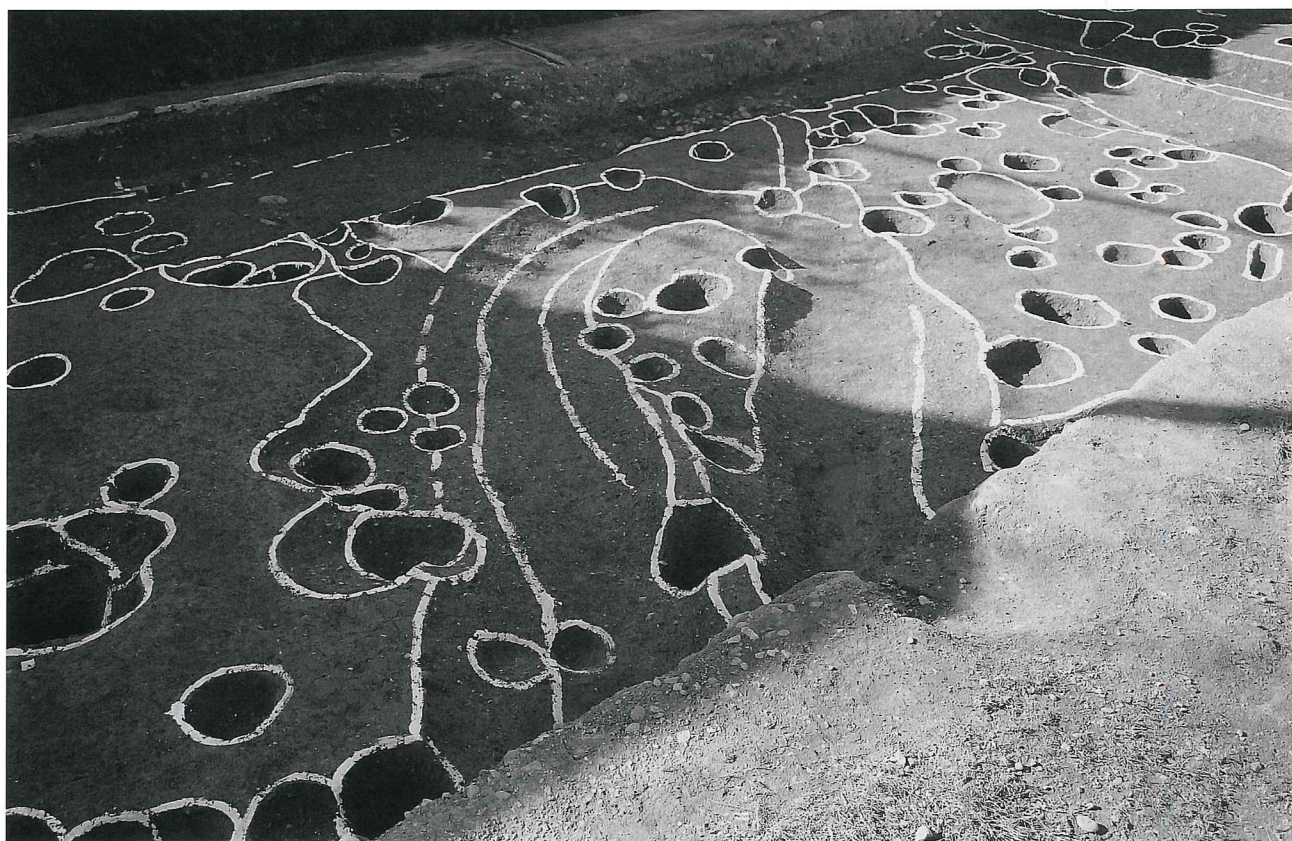


(2) 土器棺 1
(土器棺と見られる大型壺が埋設されていた。S Z 4 の方台部中央に埋葬されていたが、S Z 4 に伴うものかどうかは分からない。南より)

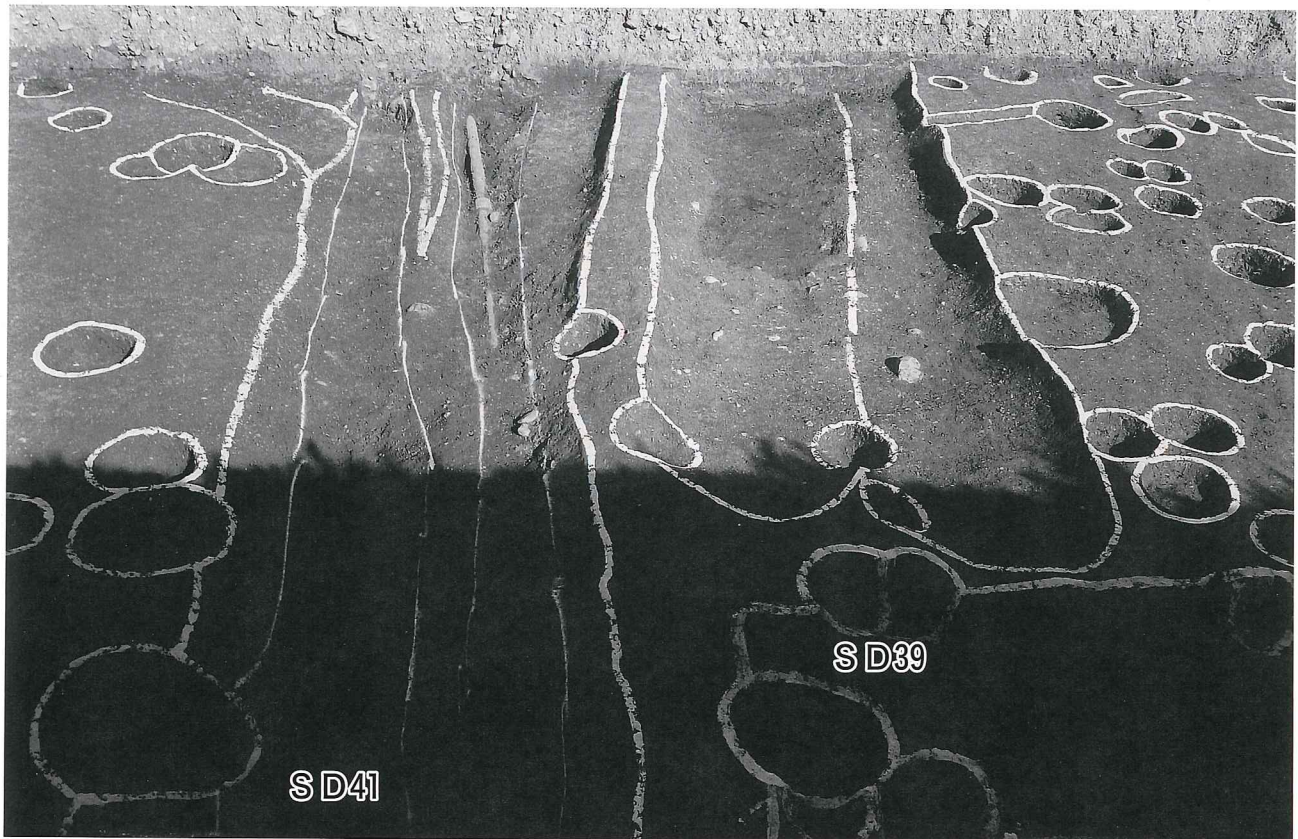


(1) S D37

(明治時代初頭の屋敷地の区画溝である。素堀溝で瓦が大量に出土した。西より)



(2) S D38 (中世のU字状になる溝で、用途不明である。北東より)

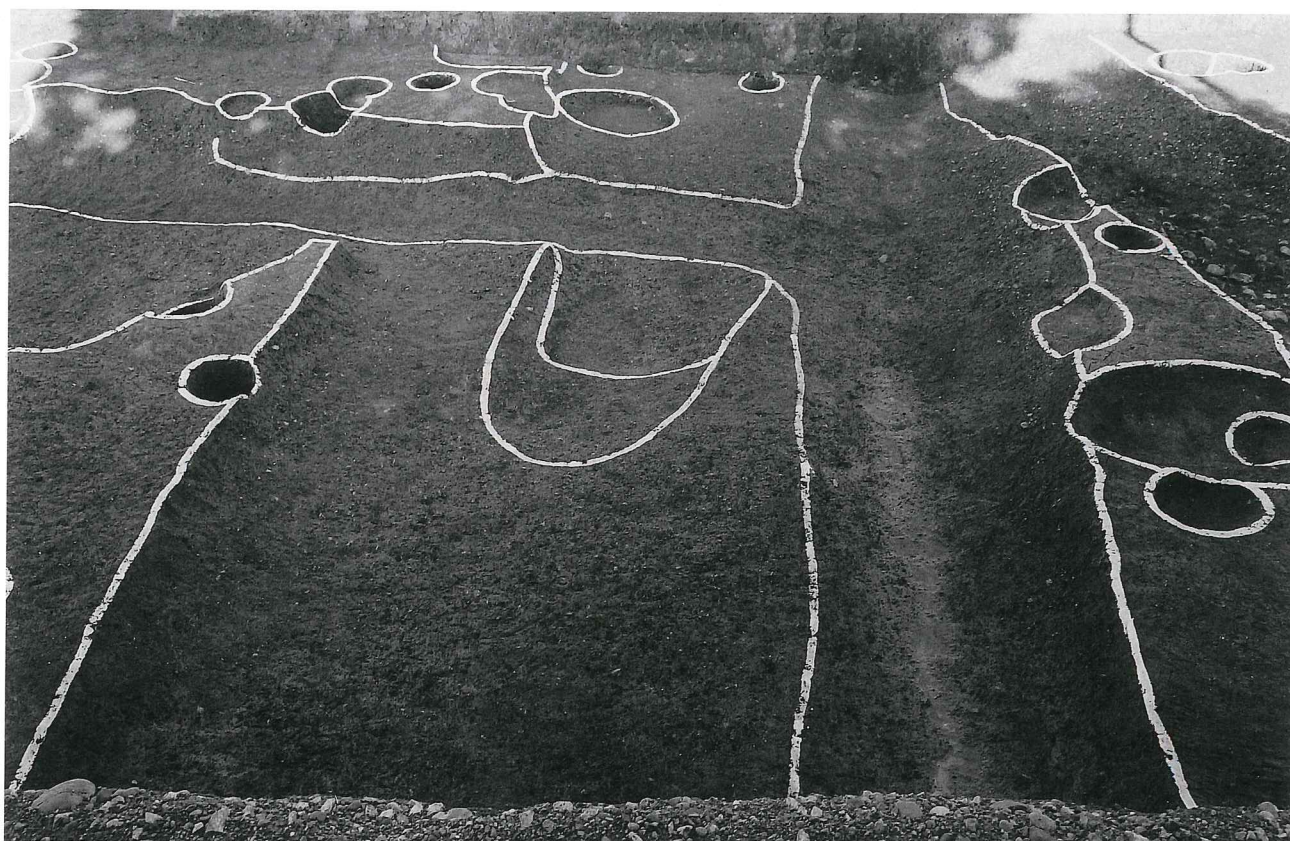


(1) S D39・41

(S D39は弥生時代後期の2本の溝が重複して検出された。方形周溝墓の溝に似るが、組合せになる溝は識別できなかった。S D41は明治時代の地割溝で、最低2時期あると見られる。南より)



(2) S D39 (西側の溝のほうが新しいことが分かる。南より)



(1) S D43

(江戸時代の溝である。幅の広い時期と狭い時期の2時期がある。
狭い溝にS D46が接続している。南より)



(2) S D43土層

(土層でみる限り幅の狭い時期のほうが古いか同時と見られる。北より)



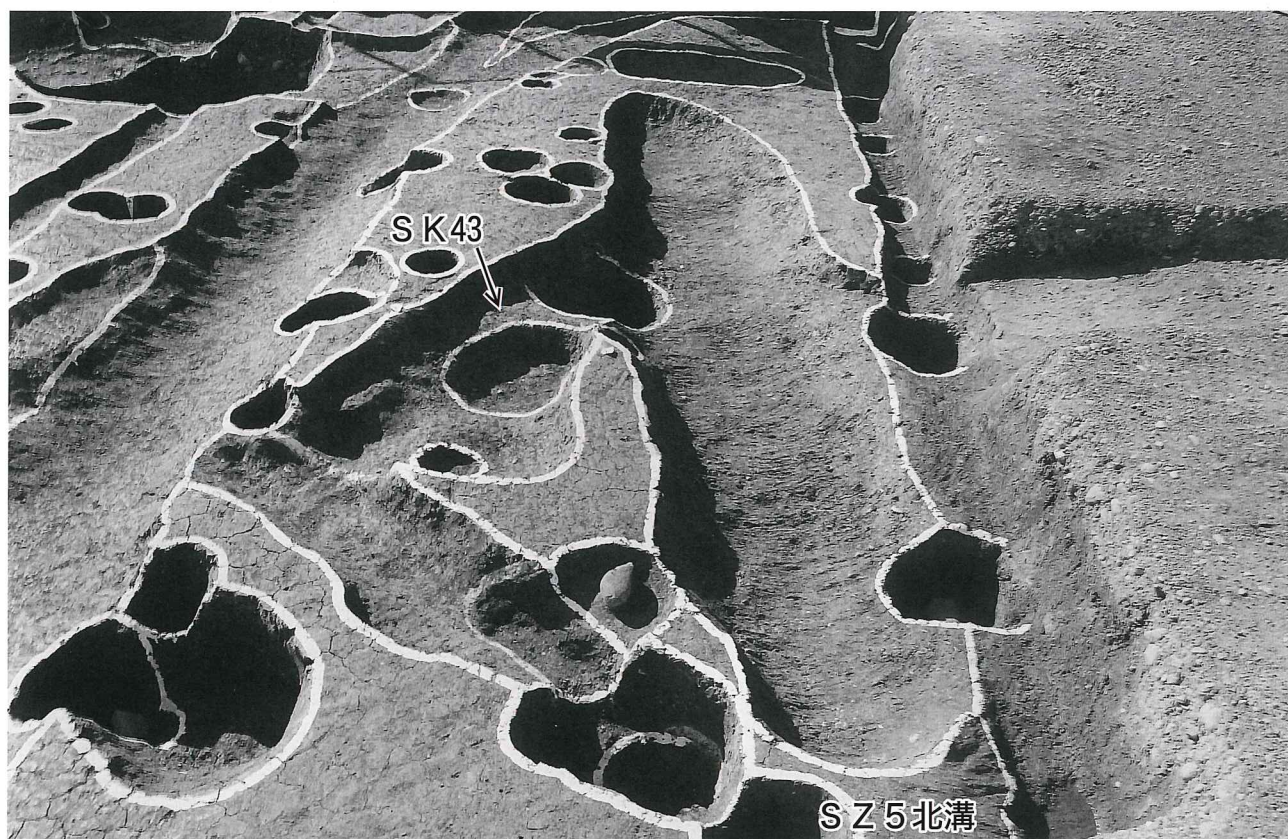
(1) S D46

(江戸時代の畑地の排水用の区画溝である。S D43が基幹水路になると見られる。東より)



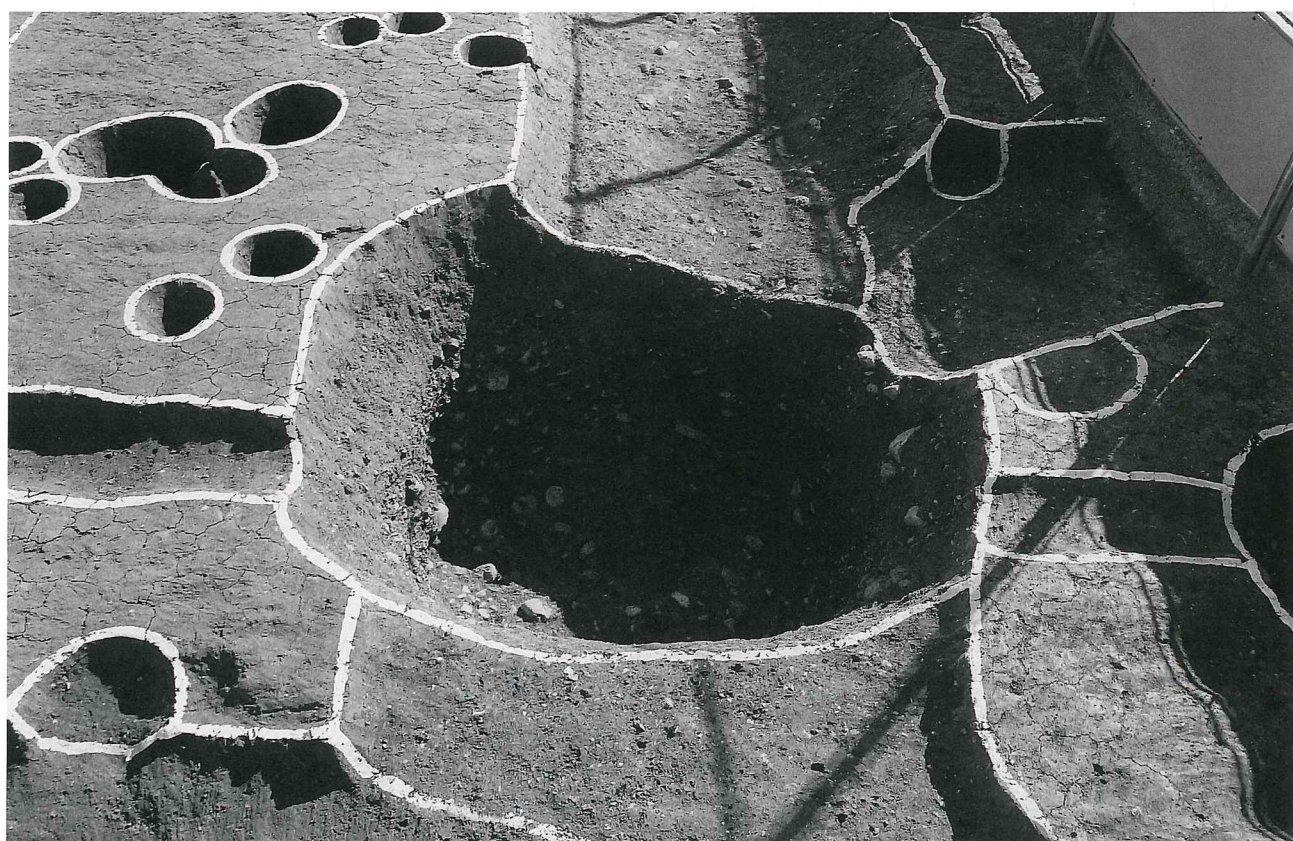
(2) S K35・37・38

(S K35・38は弥生時代後期の土坑、S K37は江戸時代末期の水溜用の土坑と見られる。西より)



(1) S K 43

(S Z 5 北溝と切り合う不定形の古墳時代後期の土坑である。
S Z 5 が破壊された時期を知るうえで参考となる遺構である。東より)



(2) S K 46 (江戸時代末期の深い水溜用の円形土坑である。北より)



(1) 調査区北壁西端土層（厚さ25cmの包含層が調査区全面に存在していた。南より）



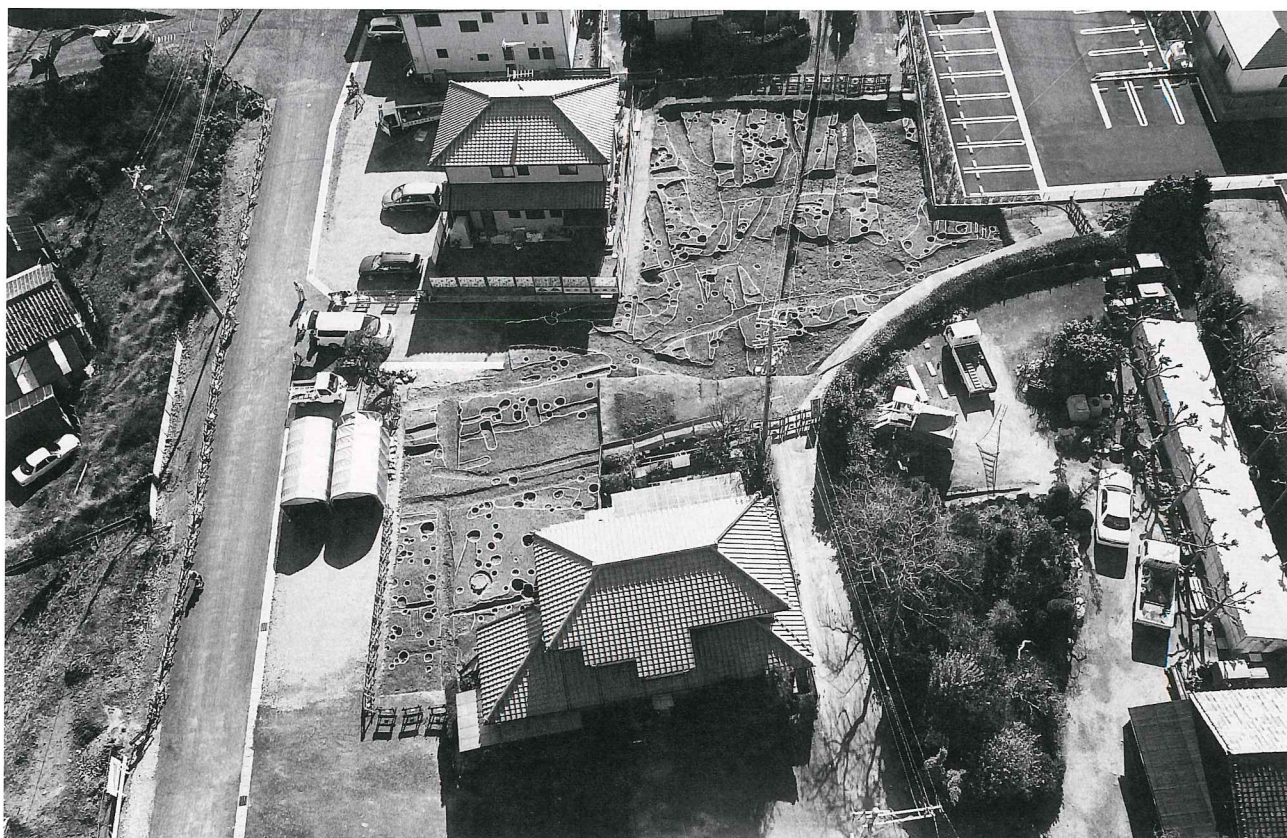
(2) 重機による表土掘削作業（表土の掘削を行った。）



(1) 作業員による遺構調査作業風景 (S Z 4 付近の調査を進めている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



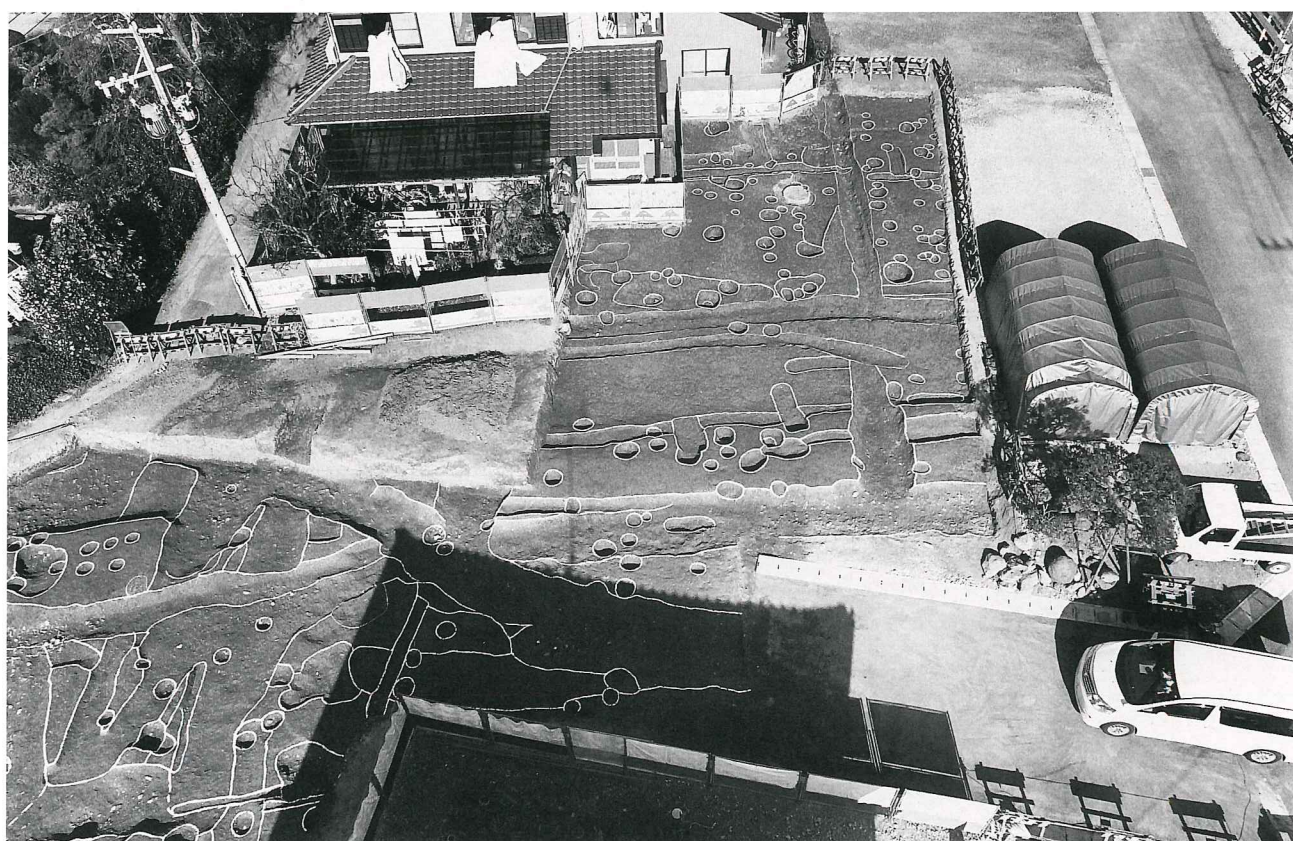
(1) 第74次発掘調査区空中写真全景
(南側の調査区全面に弥生時代後期、中世、江戸時代末期の溝が南北方向に多数見られる。北端には掘立柱建物が存在している。北より)



(2) 第74次発掘調査区空中写真全景
(溝の間には土坑や柱穴が存在しているため集落域のなかであると見られるが、溝も複数の時期があるため各時代の水通になる場所であったと見られる。西より)



(1) 第74次発掘調査区南半部分空中写真全景
(溝の方向は南北方向と、東西方向のものがある。南より)



(2) 第74次発掘調査区北半部分空中写真全景
(掘立柱建物が中心となるが、南端は弥生時代後期や近世～近代の溝が東西方向に見られる。南より)



(1) 第74次発掘調査区南半部分全景（西より）



(2) SB7

(古墳時代後期の竪穴住居であるが、かまどは近世の溝により壊されていた。壁溝の一部と柱穴、貯蔵穴は検出できた。壁溝から最低2回の建替えがあったと見られる。南より)

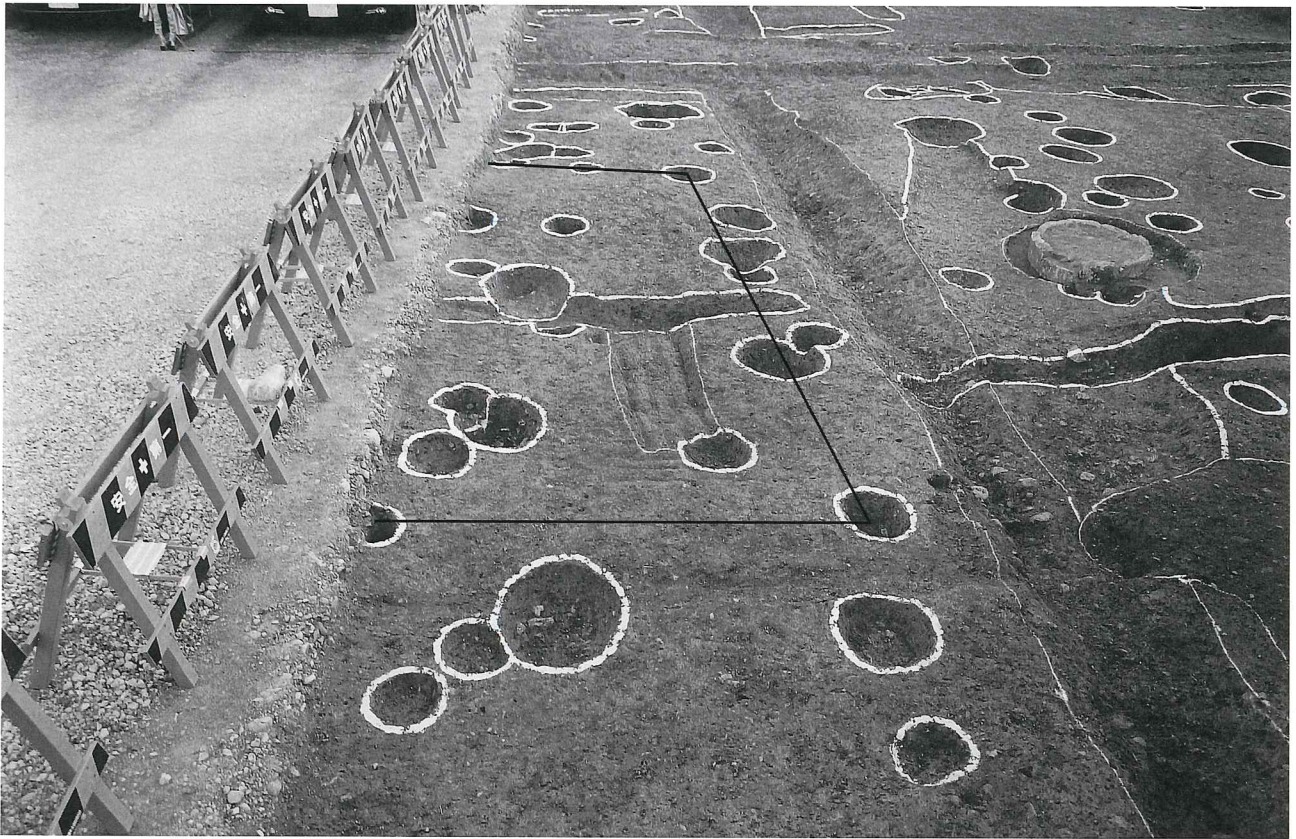


(1) S B 7貯蔵穴（南壁付近の入口近くに貯蔵穴が見られる。北より）



(2) S B 21

（壁溝の一部の検出で時期不明であるが、壁溝の状態から見ると弥生時代後期のものと見られる。東より）

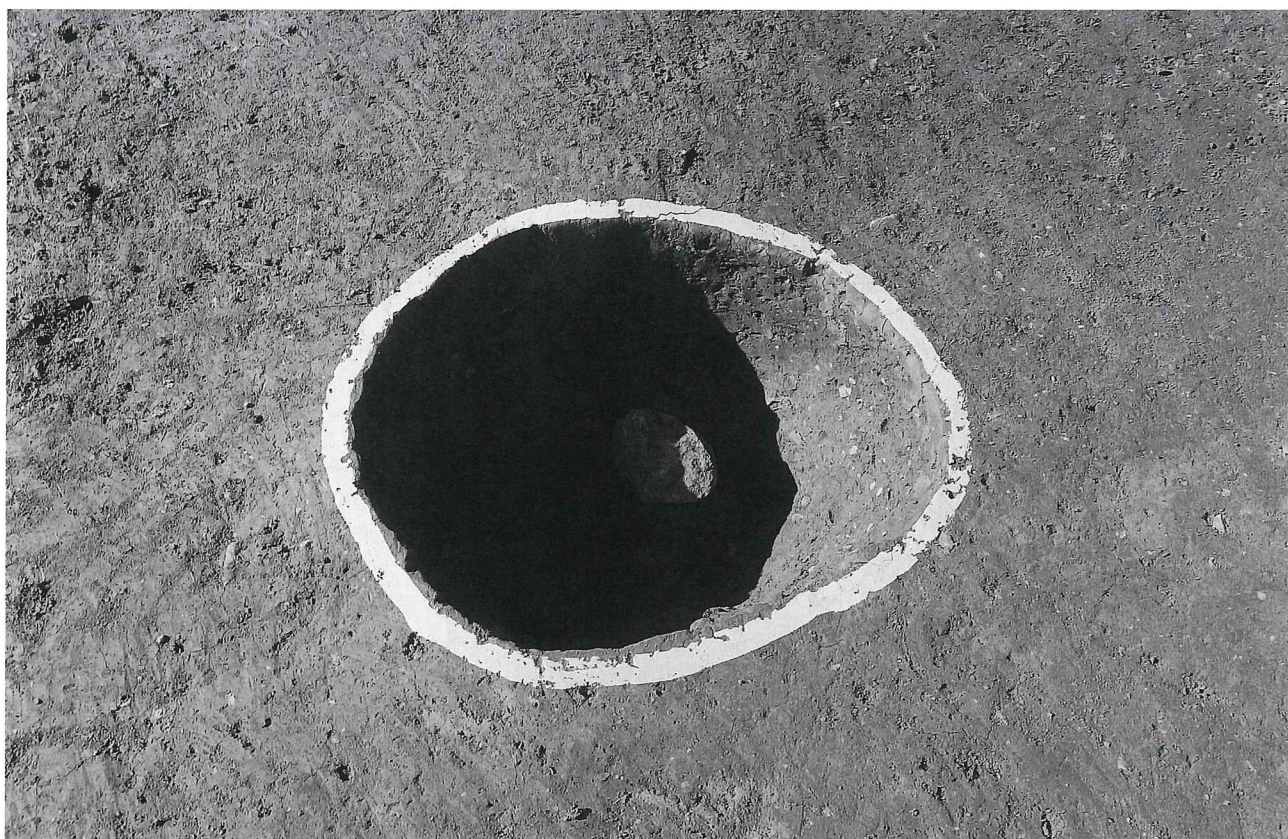


(1) SH33 (古墳時代後期の掘立柱建物と思われる。北より)



(2) SH41

(大きめの柱穴で構成される奈良時代と思われる大型掘立柱建物である。南より)



(1) SH41SP123
(底には直径20cmの柱痕跡が確認できた。北より)



(2) SZ1
(四隅に陸橋をもつ弥生時代後期の方形周溝墓であり、居住域のなかで単独で存在している特殊なものである。西より)



(1) SZ1西溝土層（自然に埋没したようで、墳丘土の流れ込みは見られない。南より）

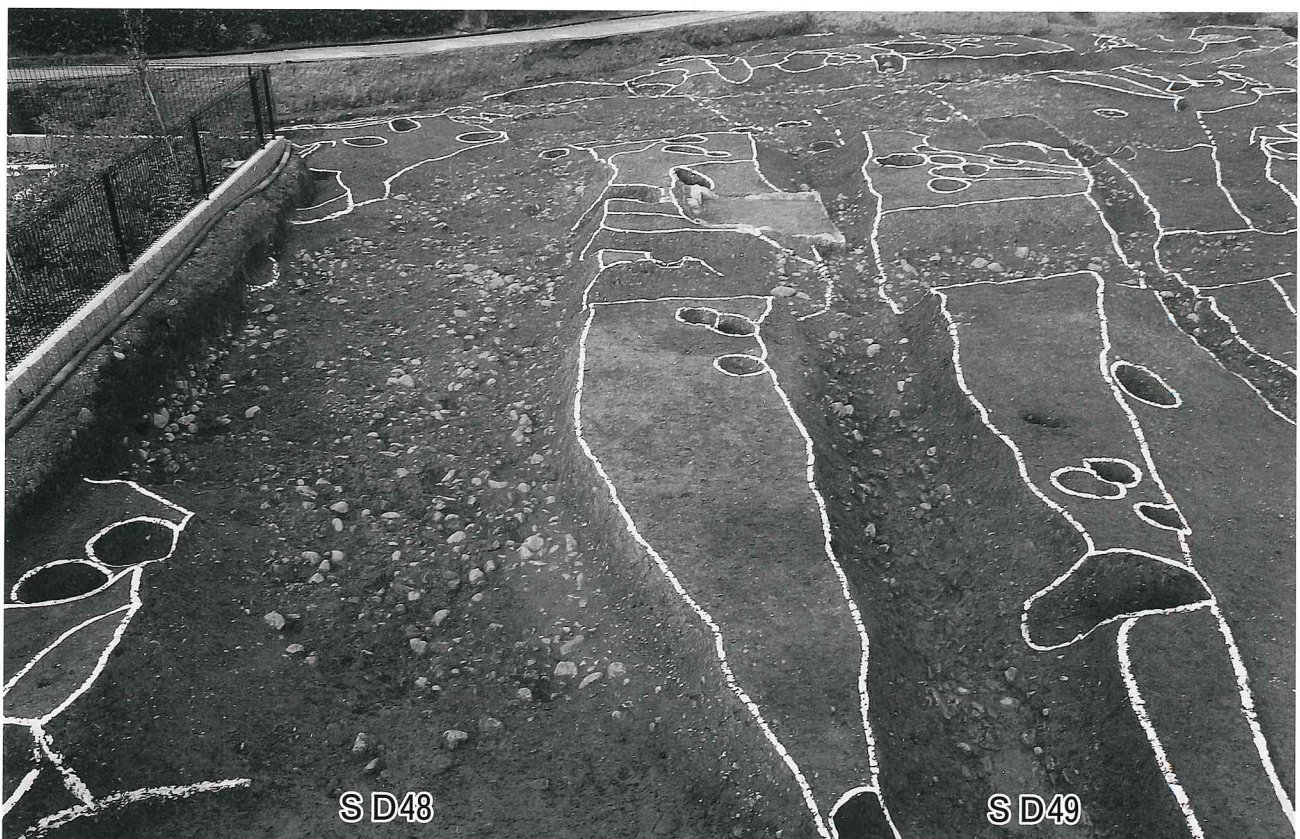


(2) SD34・35

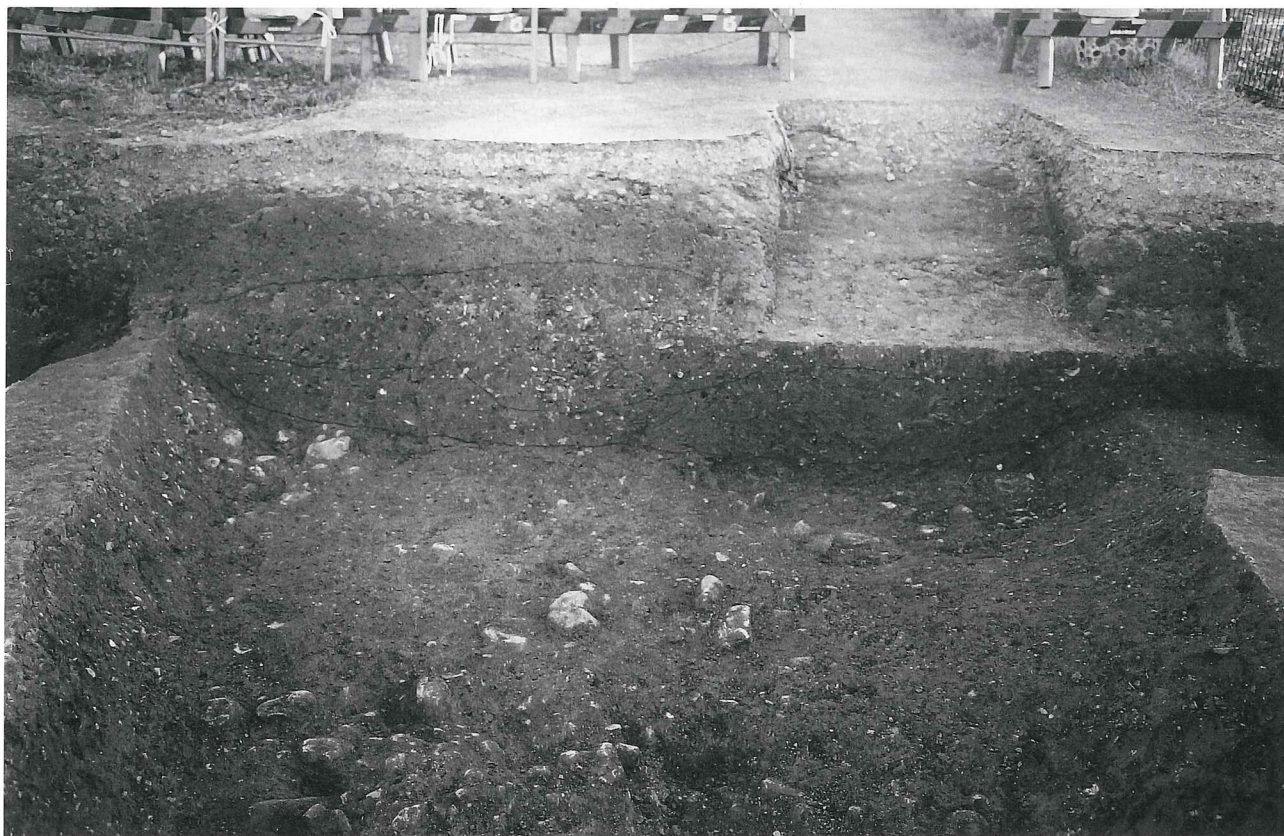
(SD34は弥生時代後期、SD35は江戸時代末期の東西方向の溝である。東より)



(1) S D34土器出土状態
(溝底よりやや浮いた場所から横倒し状態で出土した。南より)



(2) S D48・49
(S D48は弥生時代後期の幅の広い溝、S D49は江戸時代末期の排水用の溝である。南より)



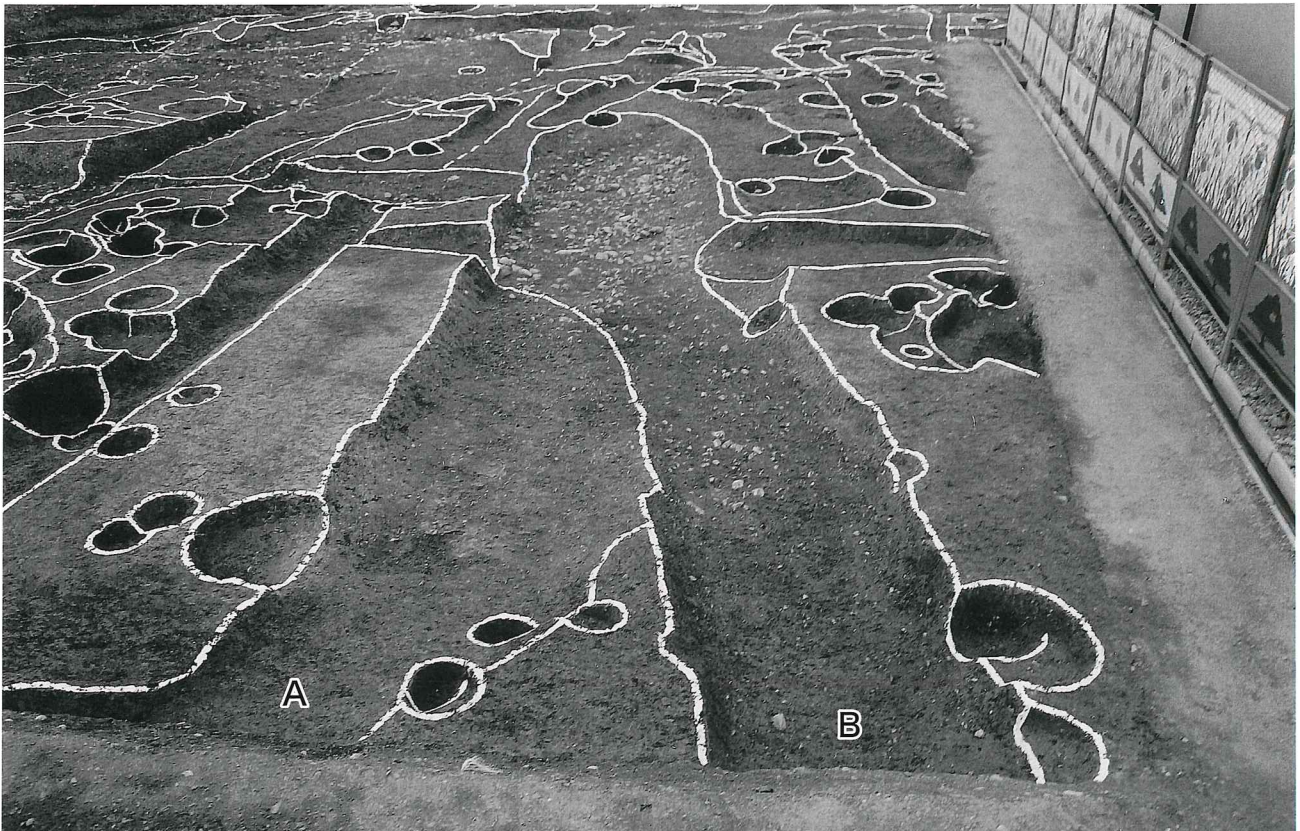
(1) S D48土層
(自然に堆積した溝であるが、弥生時代後期の細片化した土器片が多数出土した。北より)



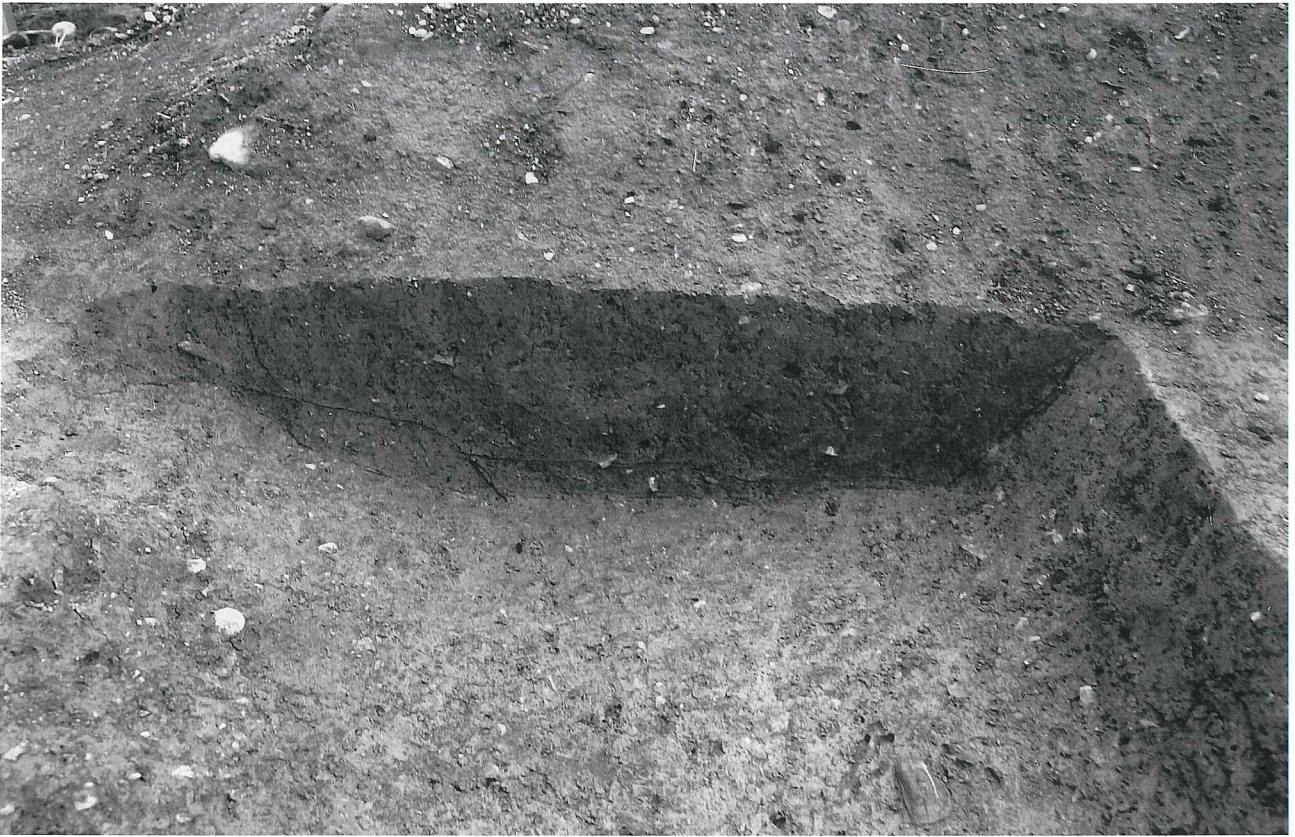
(2) S D48土器出土状況 (溝の底から小型の壺が出土した。南より)



(1) S D49・50・52・53
 (S D50は中世、S D49・52・53は江戸時代末期の溝で、それぞれ規模が大きいため基幹排水路として用途が考えられる。南より)



(2) S D54 (弥生時代後期の溝で2時期ある。南より)



(1) S D54B 溝土層
(自然堆積の溝であることが分かる。A溝よりも古くなる切り合いが確認されている。北より)



(2) S D60
(弥生時代中期後葉の溝である。後世の溝に切られ部分的にしか検出できなかった。当調査区内では最古の溝である。東より)



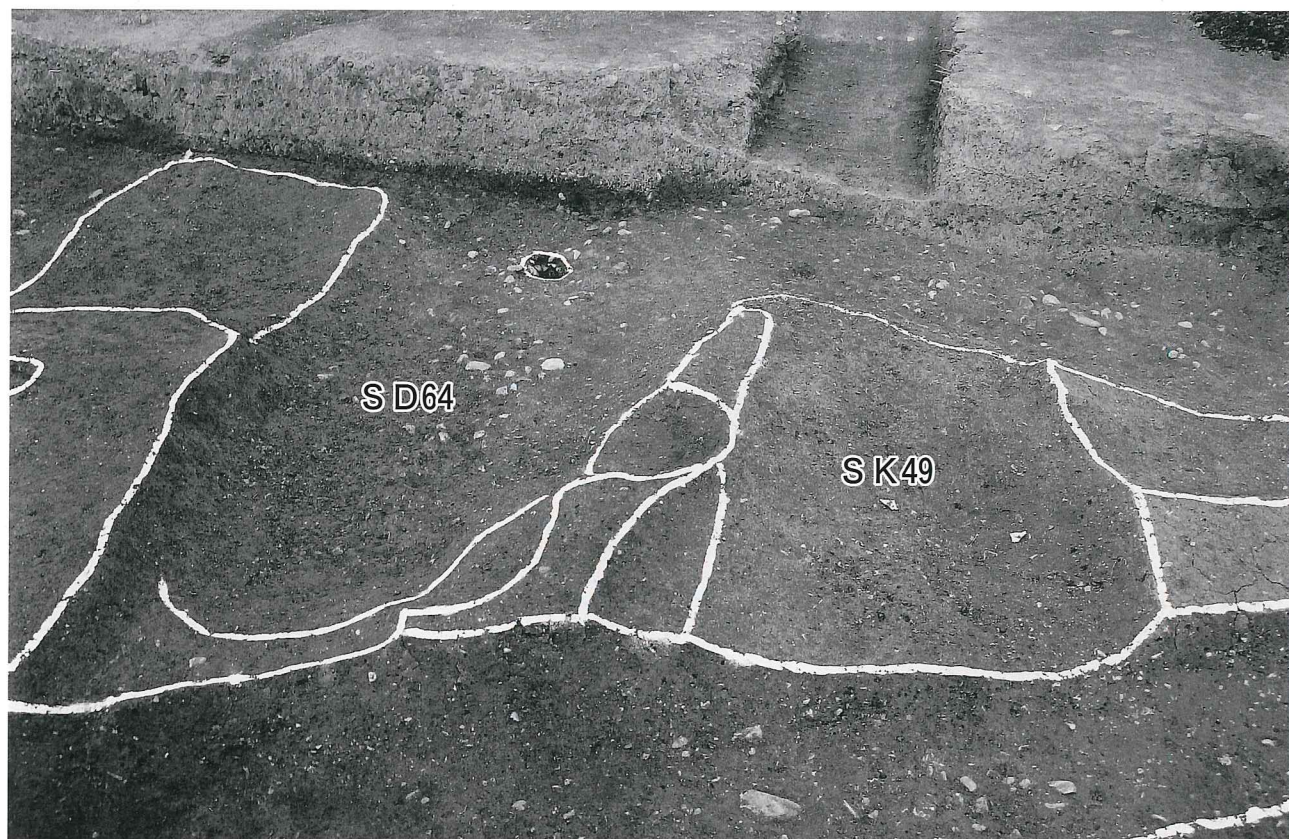
(1) S D62

(近世の時期に該当するが、複数の溝が重なり合う場所のため池状の窪地に見えている。東より)



(2) S K47

(S D48の埋土中より発見された江戸時代前期の土葬墓で、土坑の形状は良く分からなかった。かわらけと銅銭(寛永通宝)が出土した。南より)



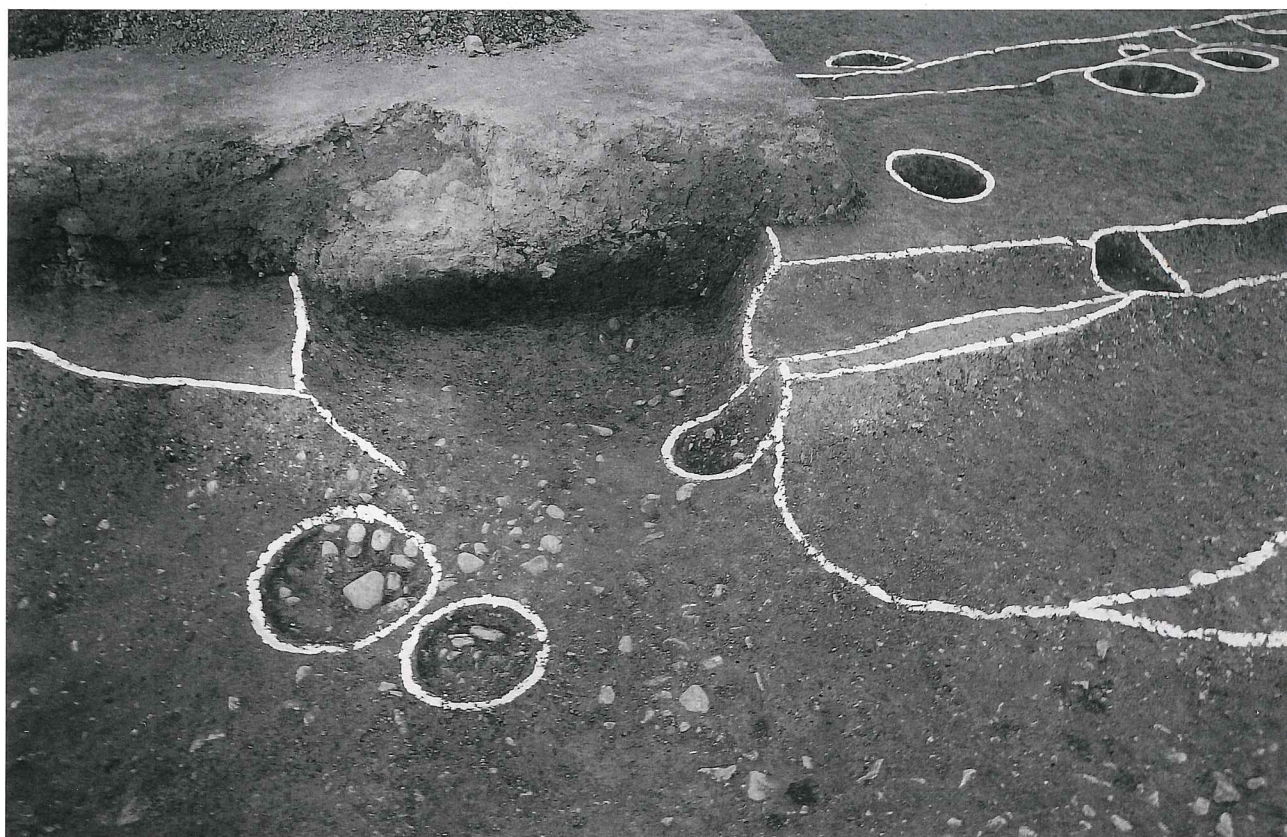
(1) SD64・SK49

(SD64は弥生時代後期、SK49は弥生時代中期後葉の時期の土坑である。
SD64も土坑か方形周溝墓の溝になる可能性もある。南より)



(2) SK49土器出土状況

(細頸の壺が底近くから横倒し状態で出土した。南より)

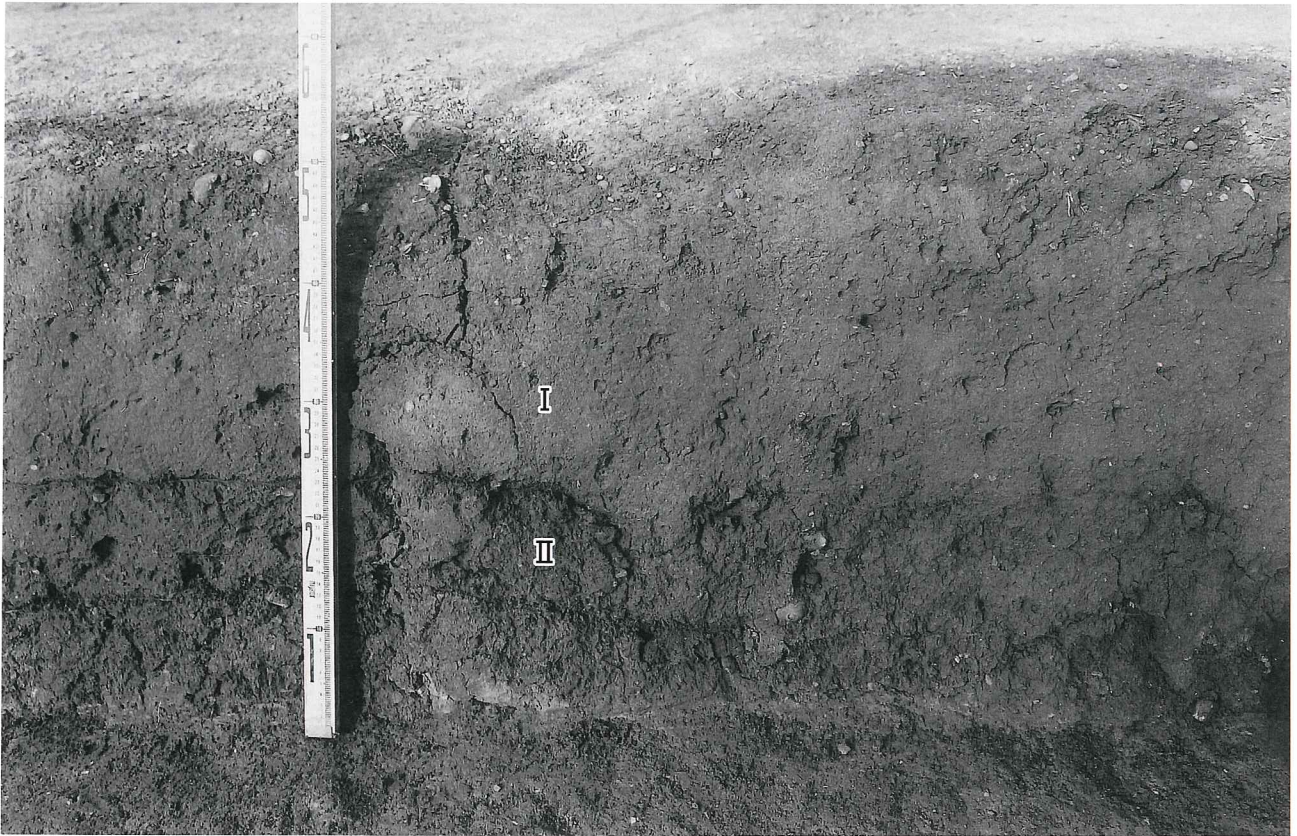


(1) S D61

(弥生時代後期の溝としたが、土坑か S D64と共に方形周溝墓の溝になる可能性もある。南より)



(2) S P12 (台付甕の胴部かなり浮いた状態で出土した。西より)



(1) 調査区南半部分北壁東端土層
(厚さ15cmの包含層が北端近くに部分的に存在していた。南より)



(2) 重機による表土掘削作業
(包含層がほとんど存在していなかったため、遺構確認面まで表土を除去することができた。)



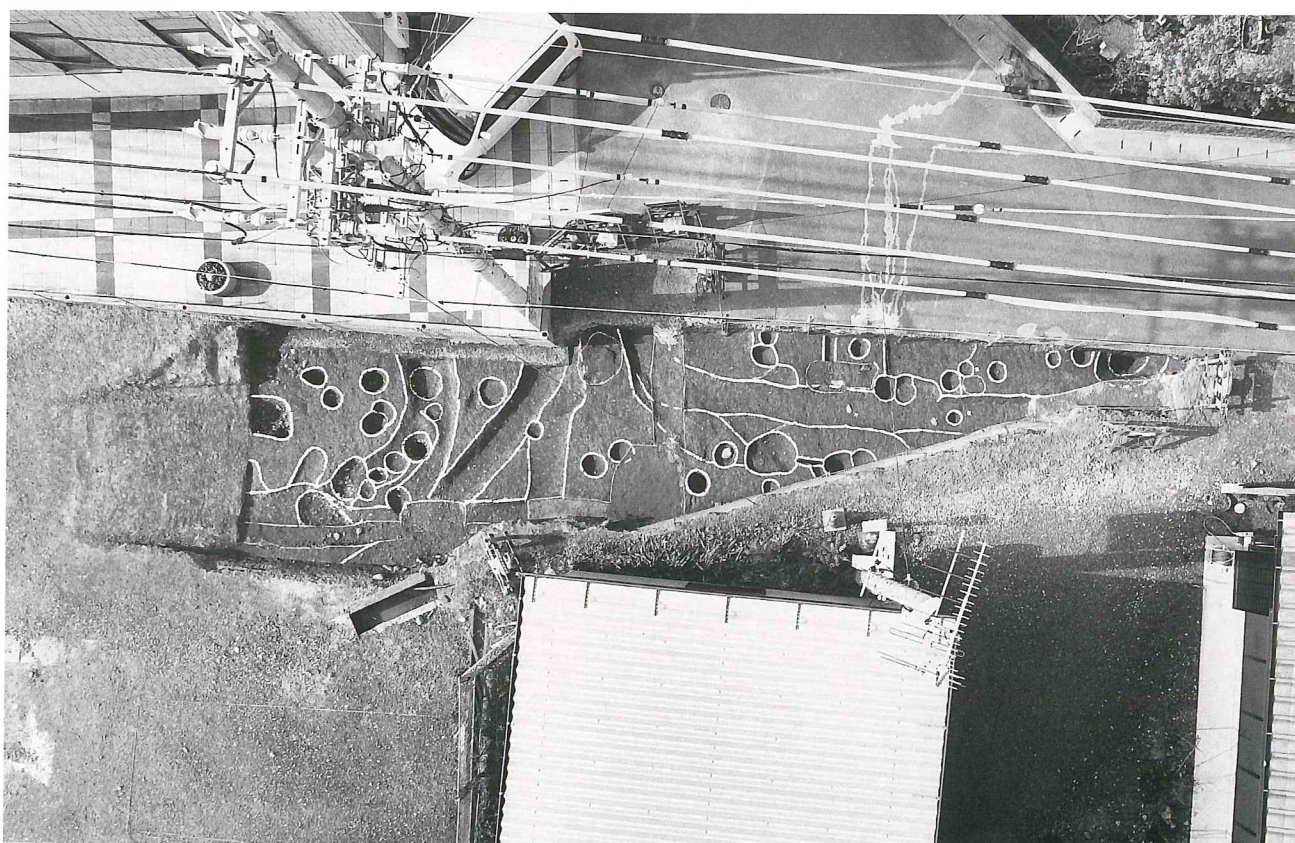
(1) 作業員による遺構調査作業風景 (S D62付近の調査を進めている。)



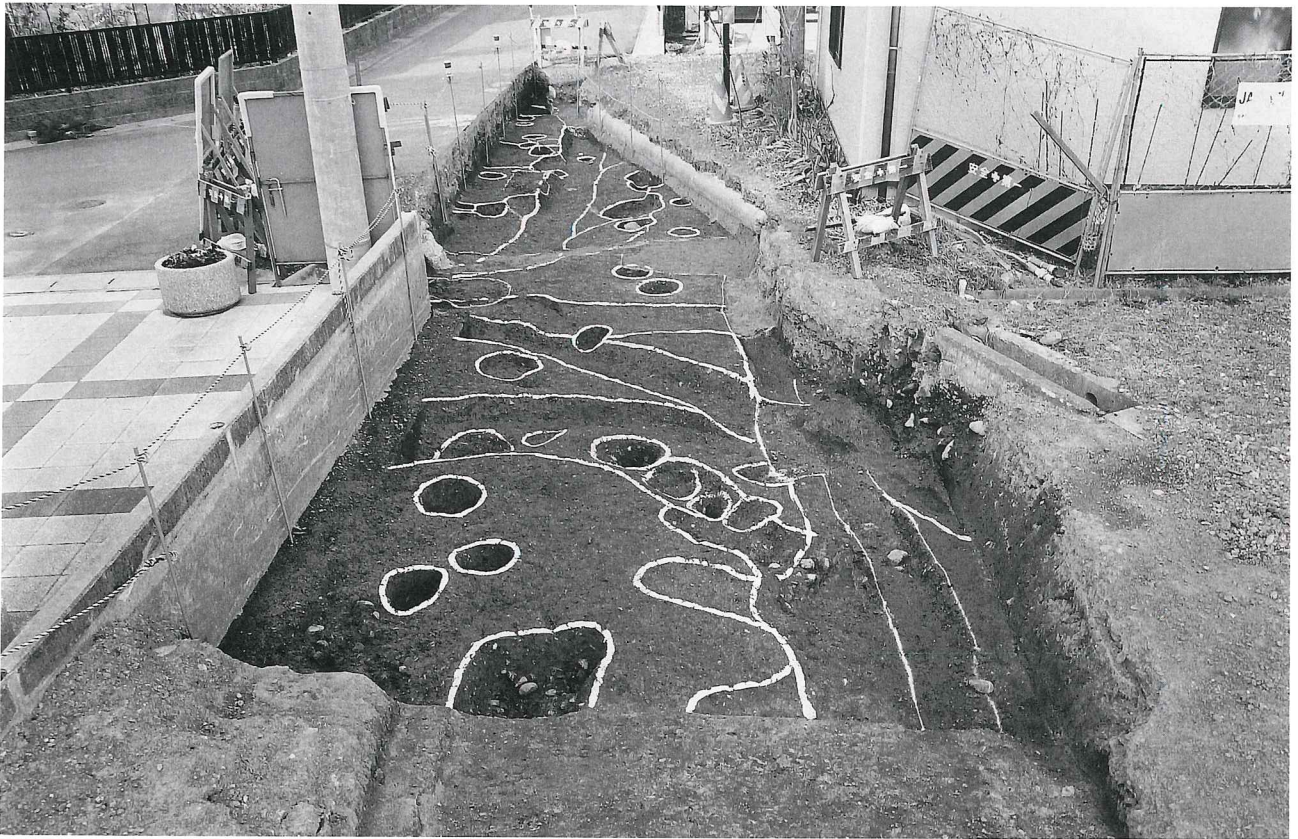
(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



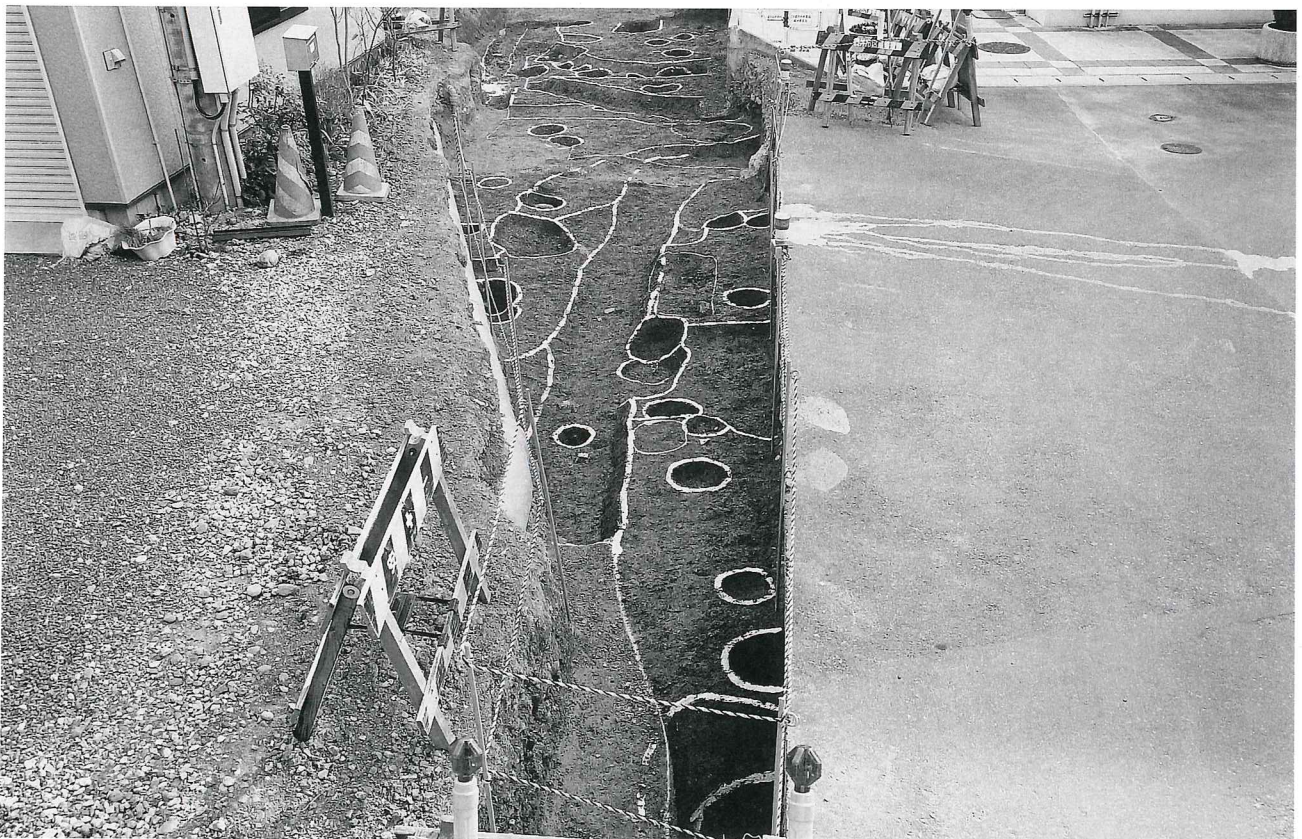
(1) 第76次発掘調査区空中写真全景
(狭い調査区であるが、弥生時代後期の竪穴住居や、江戸時代末期の溝が検出された。南より)



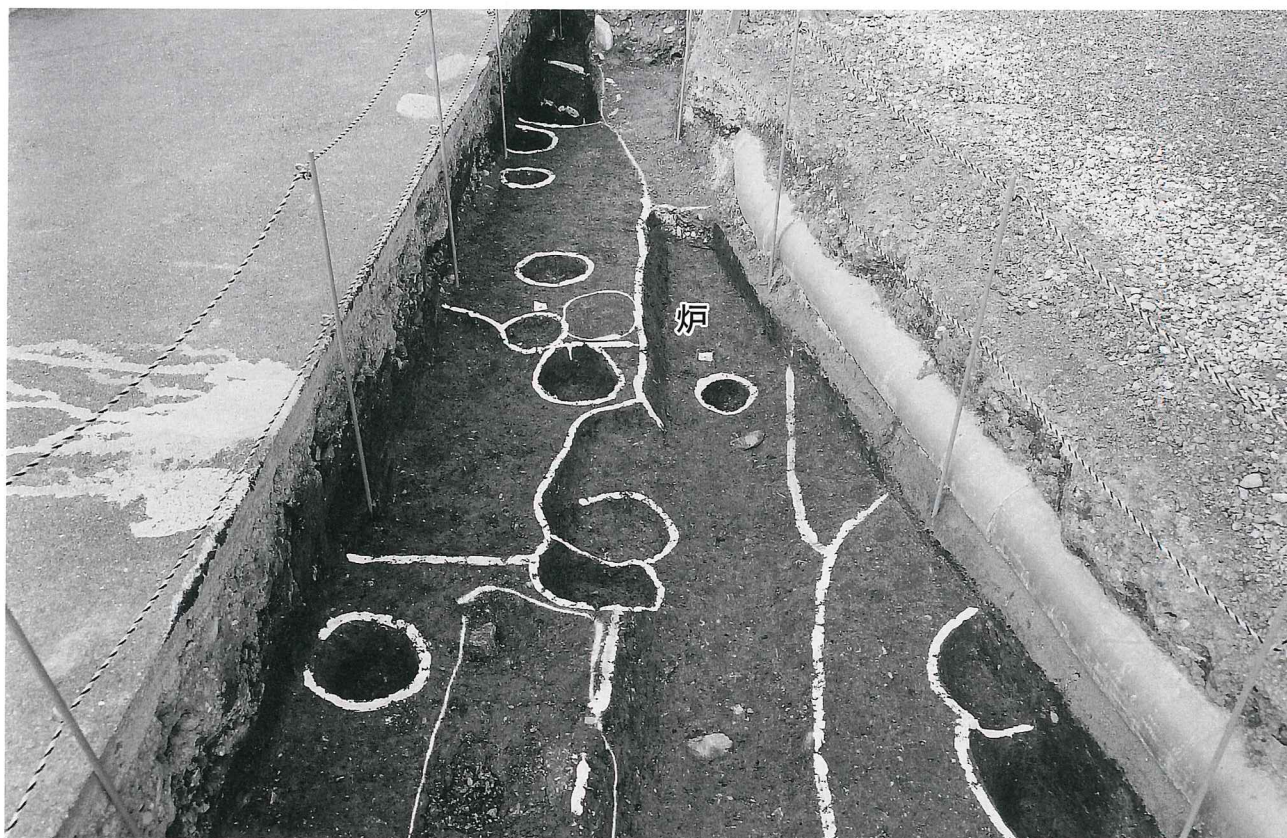
(2) 第76次発掘調査区空中写真全景
(右手に竪穴住居が検出された。左手の近世～近代の溝は南北方向と東西方向のものが見られる。上が西で、真上より)



(1) 第76次発掘調査区全景（遺構の数は比較的少ないが、居住域の様相を示す。南より）



(2) 第76次発掘調査区全景（北より）

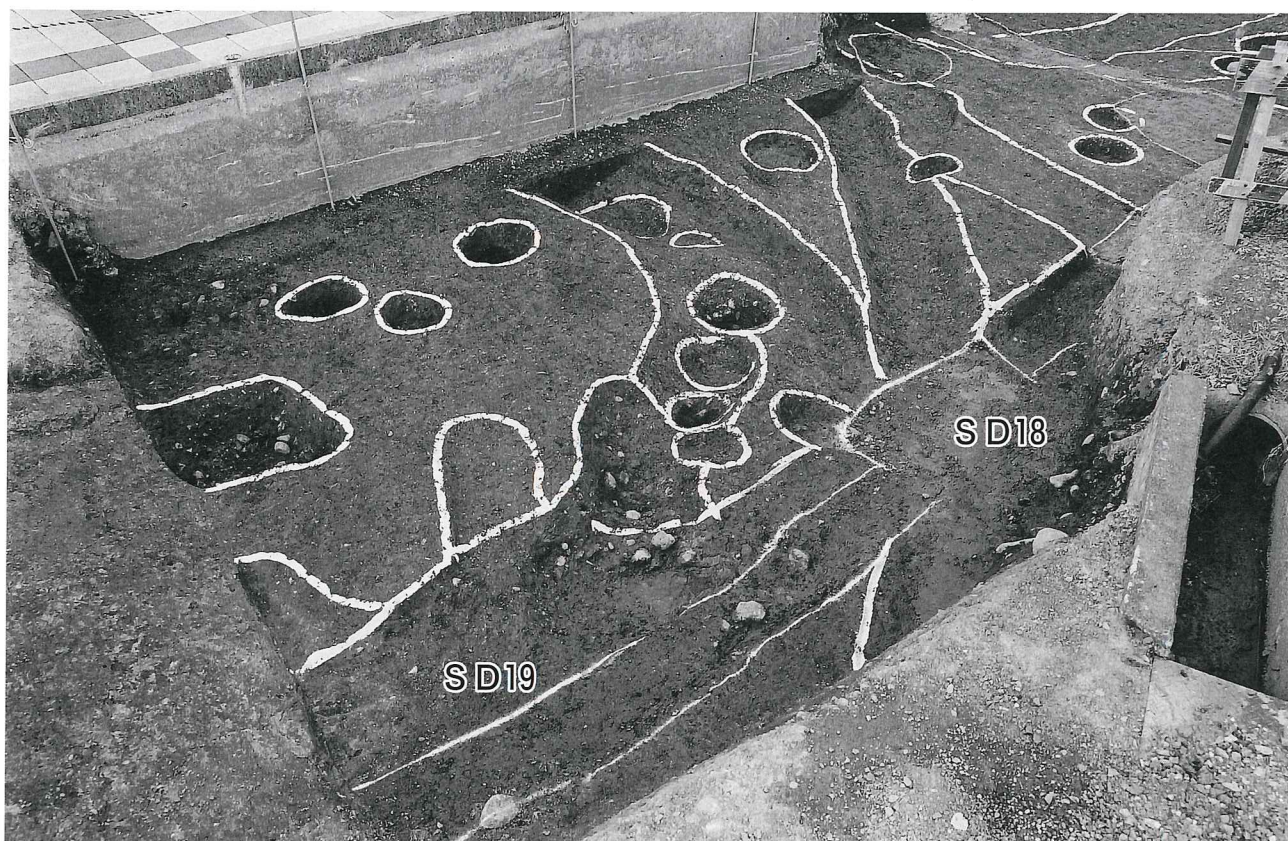


(1) SBI7

(炉と壁溝の一部しか検出できなかった。地床炉であるため弥生時代後期の竪穴住居と思われる。南より)



(2) SBI7炉跡 (地床炉で、良く焼けている。南より)



(1) SD18・19

(どちらも江戸時代末期の溝であるが、東西方向から南方向になる区画溝としてはコーナー付近に相当すると見られる。南東より)



(2) 調査区北半部分西壁中央土層

(厚さ15cmの包含層が見られるが、攪乱が激しく一部しか残存していなかったと見られる。東より)



(1) 重機による表土掘削作業
(包含層がほとんど存在していなかったため、遺構各確認面まで表土を除去することができた。)



(2) 作業員による遺構調査作業風景 (S D19付近の調査を進めている。)

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ シャシンズハンヘン				
書名		掛之上遺跡68・72・73・74・76写真図版編				
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書25				
編集著者名		松井一明				
編集機関名		袋井市教育委員会				
所在地		〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028番地 電話0538-23-9269				
発行年月日		2009年3月27日				
フリガナ 所収遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡				
フリガナ 所在地		シズオカケンフクロイシタカオカケノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 44' 24"	137° 55' 53"	20080508	1482.0㎡	袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に 伴う区画道路建設他
22216	151			～ 20090327		
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代 中～後期	竪穴住居跡 方形周溝墓 壺棺 土坑 溝	土器・石器	弥生時代大 規模集落 郡衙関連
			古墳時代 後期	竪穴住居 掘立柱建物 土坑	土師器・須恵器	
			奈良時代	掘立柱建物	須恵器	
			中世	掘立柱建物 土坑	山茶碗・かわらけ	
			近世	地割溝 土坑	陶磁器・かわらけ	

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書25

掛之上遺跡 68・72・73・74・76

— 写真図版編 —

発行年月日 2009年3月27日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-1192 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5-2